

專修寺蔵 『善信聖人親鸞傳繪』 翻刻 並びに 索引

広島大学学校教育学部日本語史研究会

## 翻字本文 凡例

一、翻字は、複製本『善信聖人親鸞傳繪』（続々日本絵巻大成、伝記・縁起篇1、中央公論社、一九九四年）に基づく。ただし、巻第一の巻頭は、専修寺宝物特別展観によって、原本で確認した（一九九八年四月六日）。また、画中の詞は、翻字の対象としていない。

一、原本の配行・字詰を保ち、訓点・諸符号をも出来るだけ忠実に翻字するよう努めた。しかし、製版の制約上十分でない場合がある。常に複製本と照合されんことを期待する。

一、漢字の字体は、JIS規格で利用できる範囲において通行の康熙字典所載の正字体に従うことを原則とした。ただし、原本の字体のままにしたものがある。

一、平仮名・片仮名の字体は、現行の字体に改めた。

一、漢字に加えられた声点は、漢字の右下に（平）（平整）（上）（去）（入）として示した。

一、虫損・破損は、□で示し、その欠落箇所は残画からの類推あるいは他本に依って（ ）内に補った。

一、本文の振り仮名および左右の注には、後筆と見られるものがある。これは、「」に入れて区別した。

一、本行の。は、原本に存する補入符である。

一、本翻字本文は、佐々木勇・花岡健吾・上野真・児玉拓世・佐藤理絵・寺田守で読み進めた原稿を元に、第一次稿を佐藤理絵が作成し、佐々木勇・佐藤理絵・寺田守・田中哲宙・森田朋子で入力した。

一、製版にあたっては、金水敏氏のホームページ「<http://www.kanji.com/>」による古典籍のコード化のためのマクロ作成<sup>1</sup>で公開されているマクロを使わせていただいた。

一、製版のもとのファイル作成には、寺田守提案の方式がとられ、入力の全般に亘って同氏の尽力が大きかった。

〔卷一〕

一 善信聖人親傳繪

一 夫聖人の俗姓は藤原氏 天児屋根

一 命二十一世の苗裔大織冠鎌子大臣の

一 4 玄孫近衛大将右大臣

從一位内膳

大納言式部卿真柄也

一 5 六代の後胤弼宰相有國卿五代の孫皇太后

一 6 宮大進有範の子也しかあれば朝廷

一 7 に仕て霜雪をも戴射山に趨て

一 8 榮花をも發へかりし人なれとも

一 9 興法の因うちにきさし利生の

一 10 縁ほかにもよをひしによりて九

一 11 歳の春比阿伯從三位範綱卿手二時一從四位上 前若

一 12 前大僧正慈因慈鎮和尚是也 法性寺殿 御息月輪殿 長兄の貴坊へ

相具し

一 13 たてまつりて鬢髪を剃除し給き

一 14 範宴少納言公と号す自爾一以來しはく

一 15 南岳天台の玄風を訪てひろく三觀

一 16 佛乘の理を達しとこしなへに楞

一 17 嚴横川の餘流を湛てふかく四教

一 18 圓融の義に明なり

一 19 建仁第三の曆春のころ聖人隱 廿九歳

一 20 遁のころさしにひかれて源空聖

一 21 人の吉水の禪房に尋參たま

一 22 ひきは則世くたり人つたな

一 23 かくして難行の小路まよひやすき

- 24 によりて易行の大道におもむ
- 25 かんとなり真宗紹隆の大祖聖人
- 26 ことに宗の淵源をつくし教
- 27 の理致をきわめてこれをのへ
- 28 たまふに立どころに他力攝生の
- 29 旨趣を受得し飽まで凡夫直
- 30 入の真心を決定しまし〜けり
- 31 建仁三年四月五日夜寅時聖
- 32 人夢想告まし〜き彼記云六角堂
- 33 の救世菩薩顔容端嚴の聖僧の形
- 34 を示現して白納の袈裟を着服せ
- 35 しめ廣大の白蓮花に端座して
- 36 善信に告命して言行者宿報設
- 37 女犯我成玉女身被犯一生之間能莊
- 38 嚴臨終引導生極樂文救世菩薩
- 39 善信に言此是我誓願也善信此誓

專修寺藏「善信聖人親鸞傳繪」翻刻並びに索引

- 40 願の旨趣を宣説して一切群生に
- 41 きかしむへしと云々爾時善信夢中
- 42 にありながら御堂の正面にして
- 43 東方をみれば峨々たる岳山あり
- 44 その高山に数千万億の有情群
- 45 集せりとみゆそのとき告命
- 46 のことく此文のころをかの山に
- 47 あつまれる有情に對て説きかし
- 48 めをはるとおほえて夢悟了云々、倩、
- 49 此記録を披て彼夢想を案する
- 50 にひとへに真宗繁昌の奇瑞念佛
- 51 弘興の表事也然者聖人後時被ニ
- 52 仰云佛教むかし西天より興て經論
- 53 いま東土に傳る是偏に上宮太子
- 54 の廣徳山よりも高く海よりも
- 55 深し吾朝欽明天皇の御宇に

- 一56 これをわたされしによりて即淨土
- 一57 の正依經論等此時に來至す儲君（コクシ）
- 一58 もし厚恩をほとこしたまはすは（コウオン）  
アツキオム
- 一59 凡愚いかてか弘誓にあふ事を得（ホムグ）
- 一60 ん救世菩薩は即儲君の本地なれば（スナラチチヨクシ）
- 一61 垂迹興法の願をあらわさんかた（スイシヤク）
- 一62 めに本地の尊容をしめすとこる也（ホンチ）
- 一63 抑、又大師聖人（オンモ、）  
空もし流刑に（ルイケイ）
- 一64 處せられたまはすはわれまた配所（バインゴ）
- 一65 に赴かんやもしわれ配所におも（オモ）
- 一66 むかすは何由か邊鄙の群類を化せん（ヘンビ）
- 一67 これなを師教の恩致なり大師聖人（オムチ）
- 一68 すなわち勢至の化身太子又觀音の（ケイシ）
- 一69 垂迹なりこのゆへにわれ二菩薩の（スイシヤク）
- 一70 引導に順て如來の本願をひろむ（オウイ）
- 一71 るにあり真宗因茲興し念佛由斯（シンシュ）

- 一72 煽なり是併聖者の教誨によりて（コレシカチカラシヤウシヤ）
- 一73 更愚昧の今案をかまへす彼二大士（オウニクマイ）
- 一74 の重願唯一佛名を専念するにた（チウクワン）
- 一75 れり今の行者錯て脇士に仕ことな（イマ）
- 一76 かれ直に本佛を仰へしと云ゝかる（ホンフチ）
- 一77 かゆへに聖人傍に皇太子を崇（シヤウニン）
- 一78 たまふ蓋斯佛法弘通の浩なる恩（カクシ）
- 一79 を謝せんかためなり（シャ）

〔卷二〕

- 一 黒谷の先徳（クロタニ） 在世のむかし矜哀（セトク）
- 二 の餘或時は恩許を蒙て製作を（アリアトキ）
- 三 見寫し或時は眞筆を降て名ヤウ（クシヤ）
- 四 を書賜すなわち願淨土方便化身土文（カキタマハル）
- 五 類六云、然愚禿釋、辯建仁辛酉曆（イノニク）
- 六 棄（ク） 雜行一分歸本願、元久乙丑歲蒙恩恕一分書選（カキタマハル）

- 7 擇チヤク一同年初夏月中旬第四日選擇セリ本願ホクワン念佛ネンブツ
- 8 集シツ内題ナイチ字ジ并ナラ南無阿弥陀佛ナムアミトフツ往生ウシヤウ之業念ノゴフ佛ブツ
- 9 爲ス本ホ二与ニ釋シヤク綽チヤク空クウ以モテ空真筆クウシンヒツ令シム三書カ二之ノ同ドウ日空ニチウウ
- 10 之真影ノシンエイ申マウ預ゾ奉ホウ圖畫トウガ一ヒト同ドウ二年閏七月下旬ニネンニツクケシノ
- 11 第九日真影クイニチシンエイ銘メイ以シテ真筆シンヒツ令シム三書カ南無阿弥陀ナムアミタ
- 12 佛ブツ与ニ若ニ我ガ成シヤク佛ブツ十方衆生ジュウホウシュウジヤウ稱カ我ガ名ナ号ガク下カ至シテ十ジュウ
- 13 聲シヤウ若ニ不生者ニヤフフシヤフ不取フシユ正覺シヤウカク彼佛ヒツチム今現在イマノイマ成シヤフ佛ブツ
- 14 當知タカナ本誓ホノチカク重願ジュウケン不虛衆生フコシユシヤウ稱念カクニシヤウ必得カナラシク往生ウシヤウ之ノ
- 15 真文シンモン又依マタヨリ夢告ユメノツケ改カヒ三綽空字ニツククノジ一ヒト同ドウ日以ニ御筆ミツツキ令シム三書カ
- 16 名ナ之ノ字ジ一ヒト了ラシム本師ホノシ聖人シヤウニシム今年七月旬三御歲コノトシノシチツキノミツノイサヒ也ナリ
- 17 選擇セリ本願ホクワン念佛ネンブツ集シツ者シヤ依ヨリ二禪定ゼンテイ博陸ハクリク月輪殿ツキノワノトノケノミヤ兼實ツキノワノトノケノミヤ
- 18 之教命ノカウイニ一ヒト所シムル三令ニ撰集センシツ一也ナリ真宗シンシュウ之簡要ノカンヤウ念ネン佛ブツ之ノ
- 19 奥義アウキ攝シヤク三サン在于ニ斯レ一見者ミルモノ易ヤカク三論サンロン一誠マコト是希有ニコレク最サイ
- 20 勝シヤウ之華文ノクワモン無上ムシヤク甚深シムシム之寶典ノホウケン也ナリ涉シヤク二年ニネン一涉シヤク二日ニヒ
- 21 蒙カウ其教誨ノクワク之人ノヒト雖モト二千萬ニマンニヤウ一云ニ親ニシク一云ニ疎ニヒク一獲ニ此コノ

專修寺藏「善信聖人親鸞傳繪」翻刻並びに索引

- 22 見寫ケンシヤウ一之徒トモカラス甚タ以難カガシ爾ニ既書シヨシ一寫製作シヤク一圖ツク畫シテ
- 23 真影シンエイ一是專念コレセシム正業シヤウゴフ之德ノトク也是決定ナリ往生ウシヤウ
- 24 之徴ノシズメ也ナリ抑オホシ悲喜ヒキキ之淚ノナミダ一註チウ二由來ユライ之縁ノエツ一云ニ
- 25 おほよそ源空ゲンクウ聖人在生セイジンの古コ他方カ
- 26 往生ウシヤウの旨メをひろめたまひしに世セあ
- 27 まねくこれに挙人コジリことくくこ
- 28 れに歸キ紫シ禁キン青セイ宮キウ政マツリを重コトする
- 29 砌キにも先マツリ黃金樹林ゴウゴンジュリンの萼ハナフサにころろ
- 30 をかけ三サン平ヘイ槐クワイ九ク平ヘイ棘キクの道ミチを正シする家イ
- 31 にも直チキ四十八願シヤウハチヤウケンの月ツキをもてあそぶ
- 32 如シカド之ノ戎ニ狄テクのともから黎ライ民ミンのたくひこ
- 33 れをあふきこれをたふとひすといふ
- 34 ことなし貴賤クキセン轅ナカヘをめぐらし門前カドノマエ
- 35 市チをなす常隨シヤウズイ呢近ニシキムの羅徒ラダそのかす
- 36 あり都トて三百八十余人サンバチジュウニヒトと云イハしかあ

- 二 37 りといへとも 親マノアクリその化を受ウケテ懃ケムその
- 二 38 誨オシヘを 守マキル族ヤカラはなはたまれなり 善信ゼンシン或アル
- 二 39 時トキ申たまはく予難行道ヨナシキヤウクウを 聞サシオて
- 二 40 易行道イキヤウダウにうつり 聖道門セイダウモンを 通トケレて
- 二 41 淨土門ジヤクドモンに入イリじより 以来イライ芳命ホウメイを かう
- 二 42 ふるにあらすよりは 豈アニシラ出離シュツリ解脱ゲツト
- 二 43 の良因ラクイを 蓄タカハ哉喜ヤヨロコヒの中の 悦何事エツカニコト
- 二 44 か如シカシ之コレニのしるかあるに 同室トウシチの 好ヨシムを 結ムスビてとも
- 二 45 に一師イチシの 誨オシヘをあふくともから これお
- 二 46 ほしといへとも 眞實シンジチに 報ホウ土得生トシヤウの
- 二 47 信心シンシムを 成シヤウしたらむ 事自他ジヤを なし
- 二 48 くしりかたし 故カヘに 且カは 當來タウライの 親友シンユウ
- 二 49 たる程ホトをもしり 且カは 浮生フシヤウの 思出オモヒデ
- 二 50 ともし 侍ベらんかために 御弟子ミヂシ參集サンシツの
- 二 51 砌ミキリにして 出言シュツゴンつかうまつりて 面々メンメンの 意イ
- 二 52 趣シユを 試コトと思ふ 所望ショウボウありと云々 大師タイシ
- 二 53 聖人シヤウジン云此条コノテウ尤モトモト可シカル然スナハチ一ニチ即明キク日人ニチヒク來臨ライリン
- 二 54 の時トキおほせられいたすへしと 而シカル翌日ニヨクシ
- 二 55 集會シユフエのところに 聖人シヤウジンのたまはく
- 二 56 今日ケフは 信不退行シンブタイキヤウダウの 御座ミザを 兩方リウハウに
- 二 57 わかたるへきなり 何イレの座ザにつきたま
- 二 58 ふへしともおのく 示給シメシタマヘと 其時シトキ三百余ソウヨ
- 二 59 人の 門モン侶リョみな 其意シイを得ウケざる 氣キあ
- 二 60 り于ニ時トキ一イチ法印ホフイン和尚ワウ位イ聖セイ覺ケツ并ニ釋シヤク信空シンクウ法蓮ホフレン上人ジョウジン
- 二 61 信不退シンブタイの 御座ミザに 可カン着ツクと云々 次ツギに 沙弥シャミ
- 二 62 法力ホフリキ 遲チ參サンして 申マフシテ云ク善信ゼンシン聖人シヤウジン  
入道ニヨクシ
- 二 63 御執筆ミシツビ何事ニニギ哉ヤと 善信ゼンシン聖人シヤウジンの たまはく
- 二 64 信不退行シンブタイキヤウダウの 座ザを わけらるゝ也
- 二 65 と 法力ホフリキ房申ホウシカレハ云ク然者シカレハ 法力ホフリキもるへからす
- 二 66 信不退シンブタイの 座ザに まいるへしと云々 仍マ
- 二 67 これを 書載カキゼたまふこゝに 數百人シユヒヤクニンの

- 二68 門徒群居すといへともさらに一言を
- 二69 のふる人なし是 恐は自力の迷心
- 二70 に拘て金剛の真信に昏かいたすと
- 二71 ころか人みな無音のあひた執筆
- 二72 上人 親自名をのせたまふ良しは
- 二73 らくありて大師聖人被ニ仰ニ云源空も
- 二74 信不退の座につらなり侍るへし
- 二75 とこのとき門葉或は屈敬の氣
- 二76 をあらはし或は鬱悔のいろを
- 二77 ふくめり
- 二78 聖人 親のたまはくいにしへ
- 二79 我大師聖人の御前に 聖信房 勢観
- 二80 房念佛房已下人々おほかりし
- 二81 時はかりなき 諍論をし侍る事
- 二82 ありきそのゆへは 聖人の御信心と
- 二83 善信か信心といさゝかもかはるとこ

- 二84 ろあるへからすたゝひとつなりと申
- 二85 たりしにこの人々とかめて云善信
- 二86 房の聖人の御信心とわか信心とひと
- 二87 しと申さるゝこといはれなしいか
- 二88 てかひとしかるへきと善信申云などか
- 二89 ひとしと申さるゝへきそのゆへは
- 二90 深智博覽にひとしからんとも申さ
- 二91 はこそまことにおほけなくもあら
- 二92 め往生の信心にいたりては一たひ他力
- 二93 信心のことはりを 承しよりこのかた
- 二94 またくわたくしなしかれば 聖人の
- 二95 御信心も他力よりたまはらせたまふ
- 二96 善信か信心も他力也 故にひとしくし
- 二97 てかはるところなしと申也と申侍
- 二98 りしところに大師聖人まさしく
- 二99 被ニ仰ニ云信心のかはると申は自力の信



- 100 にとりてのことなりすなわち智慧各別
  - 101 なるゆへに信又各別也他力の信心
  - 102 は善惡の凡夫ともに佛のかたよりのた
  - 103 まはる信心なれば源空か信心も善信
  - 104 房の信心もさらにかはるへからすた
  - 105 一なりわかかしこくて信するにあらす
  - 106 信心のかはりあふておはしまさん
  - 107 はわかまいらむ淨土へはよもまいらせた
  - 108 まはしよくこころえらるへき事
  - 109 なりと云こゝに面舌を巻口を閉て
  - 110 やみにけり
- 〔卷三〕
- 11 淨土宗興行によりて聖道門廢退
  - 12 すは空師の所爲なりとて忽罪科せ
  - 13 らるへきよし南北の碩才鬱申けり

- 34 顯淨土方便化身土文類六云竊以聖道諸教行
- 35 證久廢淨土真宗證道今盛然諸寺釋門昏
- 36 教二分不知真假門戶洛都儒林迷行一分無辯邪
- 37 正道路斯以興福寺學徒奏達太上天皇
- 38 諱藤成今上一ツツチカトノキト聖曆承元丁卯歲
- 39 旬之候主上臣下背法違義成忿結怨因
- 310 茲一真宗興隆太祖源空法師并門徒數輩不
- 311 考二罪科一狠坐三死罪一或改二僧儀一賜二姓名一處二遠流一
- 312 予其一也尔者已非レ僧非レ俗是故以三禿字爲二姓
- 313 空師并弟子等坐三諸方邊州一經二五年之居緒一
- 314 云空聖人罪名藤井元彦配所土佐國
- 315 上人罪名藤井善信配所越後國此外の
- 316 門徒死罪流罪みな略ニ之一皇帝

レノカス コレヲ クワクワイニテタメトカウス  
 諱藤成  
 佐渡院

- 三17 聖代建曆 辛 未歳子月中旬第七日中納言範光
- 三18 郷をもちて勅免此時上人右のことく
- 三19 禿字を「カ」書て奏聞し給ふに
- 三20 陛下歡感をくたし侍臣おほきに保
- 三21 美す勅免ありといへともかしこに
- 三22 化を施さんためになをしはらく在
- 三23 國し給けり

〔卷四〕

- 四1 聖人越後國より常陸國に越て笠間
- 四2 郡稻田郷と云ところに隱居したまふ
- 四3 幽栖を占といへとも貴賤を尋蓬戸
- 四4 を閑といへとも貴賤に溢佛法弘通
- 四5 の本懐こゝに成就し衆生利益の宿念
- 四6 たちまちに満足す此時聖人被三仰

- 四7 云救世菩薩の告命をうけし往夢
- 四8 既今与符合せりと
- 四9 聖人常陸國にして一向專修の
- 四10 義をひろめたまふにおほよそ疑謗
- 四11 の輩は少信順の族は多し而一人
- 四12 の僧ありて動は佛法に怨を成
- 四13 つゝ結句苦心を挿て聖人を時うか
- 四14 いたてまつる聖人板敷山と云深山を
- 四15 恒に往反したまひけるに彼山
- 四16 にして度々相待といへとも更其節
- 四17 をとけすつらく事の參差を案に
- 四18 頗奇特の思あり仍聖人に謁せん
- 四19 とおもふ心付て禅室に行て尋申
- 四20 に聖人左右なく出會たまひにけり
- 四21 すなわち尊顔にむかふに害心忽に

四22 消滅して剩後悔の涙禁かたし良

四23 覽ありて有のまゝに日者の宿鬱

四24 を述すといへとも聖人またおとろけ

四25 るいろなし立ところに弓箭を

四26 切刀杖を捨頭巾を取柿衣を改めて

四27 佛教に歸しつゝ終に素懷を遂き不

四28 思議なりし事也すなわち明法房

四29 是也聖人つけ給き

四30 聖人東関の堺を出て花城の路に

四31 赴まし／＼けり或日晚陰に及て箱根

四32 の陰阻にかゝりつゝ遥行客の蹤を送

四33 て漸人屋の樞に近に夜もすてに

四34 曉更にをよむて月もはや孤嶺に

四35 かたふきぬ于三時聖人あゆみよりつゝ案内

四36 し給ふにまことに齡傾たる翁のうる

四37 はしくしやうそきたるかいとこととく

四38 出會て云やう社廟ちかき所のならひ

四39 とももの夙夜あそひし侍るにおきなも

四40 ましわりつるかいさゝか寄む侍ると思

四41 ほどに夢にもあらずうつゝにもあら

四42 て權現被ニ仰云只今我尊敬をいたすへき

四43 客人此路を過給へきことあり必懸

四44 懃の忠節を抽て殊丁寧の饗應を

四45 儲へしと示現いまた覺終さるに貴

四46 僧忽として影嚮したまへり何

四47 たゝ人にましまさん神勅是炳焉

四48 なり感應最恭敬すと云て尊重屢請

四49 したてまつりてさま／＼に飯食を粧

四50 いろ／＼に珍味を調けり

四51 聖人古郷に歸て往事をおもふに

四52 年々歳々夢のことし幻のことし

- 四53 長(平安) 平(平) 洛(入陽) 聖(聖) の 栖(栖) も 蹤(蹤) を と、むるに 嬾(嬾)
- 四54 とて 扶(平風) 馮(馮) 馮(馮) (入) と ころ、く、に 移(移) 住(住) した
- 四55 まひき 五(五) 条(条) 西(西) 洞(洞) 院(院) わたり 是(是) 一(一) の 勝(勝) 地(地) なり
- 四56 とて しはらく 居(居) を 卜(卜) た まふ 今(今) 此(此) に
- 四57 しへ 口(口) 決(決) を 傳(傳) 面(面) 受(受) を 遂(遂) し 門(門) 徒(徒) 等(等) を の
- 四58 おの 好(好) を 慕(慕) 路(路) を 尋(尋) て 參(參) 集(集) た まひ
- 四59 けり その 常(常) 陸(陸) 國(國) 那(那) 荷(荷) 西(西) 郡(郡) 大(大) 部(部)
- 四60 郷(郷) に 平(平) 太(太) 郎(郎) なにか しと 云(云) 庶(庶) 民(民) あり
- 四61 聖(聖) 人(人) の 訓(訓) を 信(信) て 專(專) 二(二) なかりき 而(而) 或(或)
- 四62 時(時) 件(件) 平(平) 太(太) 郎(郎) 所(所) 務(務) に 駢(駢) て 熊(熊) 野(野) に 詣(詣) へ
- 四63 しとて 事(事) 由(由) を 尋(尋) 申(申) さむ ため(ため) に 聖(聖) 人(人)
- 四64 へ 參(參) たるに 被(被) 二(二) 仰(仰) 一(一) 云(云) 夫(夫) 聖(聖) 教(教) 万(万) 差(差) 也(也) 一(一) つ
- 四65 れも 機(機) に 相(相) 應(應) すれば 巨(巨) 益(益) あり 但(但) 未(未)
- 四66 法(法) の 今(今) 時(時) 聖(聖) 道(道) の 修(修) 行(行) に を きては 成(成) す
- 四67 へからす すなわち 我(我) 未(未) 法(法) 時(時) 中(中) 億(億) 々(々) 衆(衆)
- 四68 生(生) 起(起) 行(行) 修(修) 道(道) 未(未) 有(有) 一(一) 人(人) 得(得) 者(者) と 言(言) 唯(唯) 有(有) 淨(淨)

專修寺藏「善信聖人親鸞傳繪」翻刻並びに索引

- 四69 土(土) 一(一) 門(門) 可(可) 通(通) 入(入) 路(路) と 云(云) 此(此) 皆(皆) 經(經) 釋(釋) の 明(明) 文(文) 如(如)
- 四70 來(來) の 金(金) 言(言) 也(也) 而(而) 今(今) 唯(唯) 有(有) 淨(淨) 土(土) の 真(真) 說(說) に 就(就)
- 四71 て 忝(忝) 彼(彼) 三(三) 國(國) の 祖(祖) 師(師) 各(各) 此(此) 一(一) 宗(宗) を 興(興) 行(行) す 所(所) 以(以) に
- 四72 愚(愚) 禿(禿) 勸(勸) と ころ 更(更) わた たくし 不(不) 然(然) に 一(一)
- 四73 向(向) 專(專) 念(念) の 義(義) は 往(往) 生(生) の 肝(肝) 腑(腑) 自(自) 宗(宗) の 骨(骨) 目(目) 也(也) 即(即)
- 四74 三(三) 經(經) に 隱(隱) 顯(顯) あり といへとも 云(云) 文(文) 云(云) 義(義) 共(共) 明(明)
- 四75 哉(哉) 大(大) 經(經) の 三(三) 輩(輩) にも 一(一) 向(向) と 勸(勸) て 流(流) 通(通)
- 四76 には これを 彌(彌) 勒(勒) に 附(附) 囑(囑) し 觀(觀) 經(經) の
- 四77 九(九) 品(品) にも しはらく 三(三) 心(心) と 說(說) て 是(是) 又(又)
- 四78 阿(阿) 難(難) に 附(附) 囑(囑) す 小(小) 經(經) 一(一) 心(心) 說(說) 。
- 四79 證(證) 誠(誠) す 因(因) 二(二) 之(之) 論(論) 主(主) 一(一) 心(心) と 判(判) し 和(和) 尚(尚) 一(一) 向(向)
- 四80 と 釋(釋) す 然(然) 則(則) 何(何) の 文(文) に 口(口) りて 一(一) 向(向) 專(專) 修(修)
- 四81 の 義(義) 立(立) へからさるそや 證(證) 誠(誠) 殿(殿) の 本(本)
- 四82 地(地) すなわち 今(今) まの 教(教) 主(主) なり かる かゆ へ
- 四83 に 左(左) も 右(右) も 衆(衆) 生(生) に 結(結) 緣(緣) の 志(志) ぶ かき
- 四84 によりて 和(和) 光(光) の 垂(垂) 迹(迹) を 留(留) た まふ

- 四85 垂迹スイシヤクをととむる本意ホンイたゝ結縁ケチヅメの
  - 四86 群類グンレイをして願海ガンカイに引インせんとなり
  - 四87 しかあれば本地ホンチの誓願セイガンを信シンして一
  - 四88 向カウに念佛ニホフをこととせむセム輩ハヤ公務コウムにも
  - 四89 したかひ領主リヤウシュにも駈仕カシてその靈地レイヂ
  - 四90 を踏フミその社廟シヤウに詣ケイせん事更サタに
  - 四91 自心ジシンの發起ホチキするところにあらず然者シカハ
- (以下欠)

〔卷五〕

- 五1 聖人シヤウニン弘長コウチャウ二年ニネン戌申ウツチノシ仲冬チウトウ下旬ゲンジンの候コウよりい
- 五2 さゝか不例フレイの氣キまします自ヨリニ尔ニ此来口ココノキに
- 五3 世事セジをましへすたゝ佛恩フツオンのふかきこ
- 五4 とをのふ聲コエに餘言ヨゴンをあらわさすも
- 五5 はら 稱名シヨウメイたふることなし而シカル 同第八日トウハチノヒ
- 五6 頭北面ツボク西右脇サイウワキに臥フシしたまひてつゝめに

- 五7 念佛ニホフの氣キたへをはりぬ于ニ三時サンジ一類イツレイ齡レイ九
- 五8 旬ジュンに満ミチたまふ禪房ゼンポウは長安チャウアン馮翊フョウキの邊ヘ
- 五9 万マン里リ小路コウジ南ナンなればはるかに河東カトウの路ロを曆レキ
- 五10 洛陽ラクヤウ東山トウサンの西麓セイロク鳥部野トウボノの南邊ナンペン延
- 五11 仁寺ニシに葬サウしたてまつる遺骨イコチを拾ヒロイて
- 五12 同山トウサン麓鳥部野ロクトウボノの北邊ホクペン大谷トウタニにこれをお
- 五13 さめをはりぬ而シカレ終焉シュウオンにあふ門弟モンテイ勸化クワンカ
- 五14 をうけし老若ラウニヤクをのく在世サイセのいにしへ
- 五15 を思滅オモヒメツ後のいまを悲カナシムて恋慕レンボ涕泣テイキツせすと
- 五16 いふことなし
- 五17 文永ブンエイ九年クニノ甲冬ケイトウ比東ヒトウ山西サンシ麓鳥部野ロクトウボノの北大
- 五18 谷タニの憤慕フンボをあらためて同麓トウロクよりなを
- 五19 西吉水セイキスイの北邊ホクペンに遺骨イコチを堀渡ホリワタシて佛閣フツカク
- 五20 を立影像タチエイザウを安ヤスす此時ココノトキに當アタリて聖人シヤウニン相
- 五21 傳デンの宗義シュウギいよく興コウし遺訓イイジンますく
- 五22 盛サカリこと頗スゴク在世サイセの昔ムカシに超トヘたりすへて

- 五23 門葉國郡に充満し末流處々に遍布
- 五24 して幾千一萬といふことをしらす其
- 五25 稟教を重して彼報謝を抽る輩縉
- 五26 素老少面々あゆみを運て年々
- 五27 廟堂に詣す凡聖人在生の間奇特こ
- 五28 れおほしといへとも羅縷に不違仍
- 五29 しかしなからこれを略するところ
- 五30 なり
- 五31 右縁起畫圖之志偏爲知恩報德
- 五32 不爲戲論狂言刺又馳紫毫拾翰林
- 五33 其昧尤拙其詞是苟付冥付顯有
- 五34 痛有恥雖然只憑後見賢者之
- 五35 取捨無顧當時愚案之紕繆而已
- 五36 于時永仁第三曆乙應鐘仲旬第二天
- 五37 至于晡時終草了 執筆衡門覺如
- 五38 今同歲太呂仲旬第三天又書之

## 語彙索引 凡例

一、本索引は、専修寺蔵『善信聖人親鸞傳繪』（二二九五年写、覚如筆）に用いられている総ての語を、複製本（続々日本絵巻大成 伝記・縁起篇1、中央公論社、一九九四年）に基づいて、収めたものである。なお、本絵巻については、千葉県照願寺蔵本の語彙総索引が「鎌倉時代語研究」第十一輯（一九八八年）に発表されている（金子彰・高橋富美子編「照願寺蔵 本願寺親鸞聖人傳繪 総索引稿」）。

一、専修寺本『善信聖人親鸞傳繪』（以下、本資料という）は、親鸞の曾孫覚如（二二七〇〜一三五一）の自筆本と見られており、漢字のほとんどに当時の振り仮名が加点されている。しかし、本文と振り仮名とに仮名遣いの違いが見られ（佐藤理絵『善信聖人親鸞傳繪』の国語学的研究）（平成十年度広島大学学校教育学部卒業論文）、振り仮名が本文と同一人物の手になるものかどうかは疑問である。ただし、仮名字体から、本文と同時期の加点であると判断される。よって、鎌倉時代語研究上有効と判断し、本索引を作成するものである。

一、本資料は、巻第一〜巻第五までの五軸で伝存している。

一、各項の記載形式は、見出し語・用例・用例の所在とした。

一、見出し語について

1. 見出し語は、平仮名で歴史的仮名遣（字音語はいわゆる字音仮名遣）で統一した。

a. 和語には、私に濁点を付した。

b. 漢字の読みは、本資料の振り仮名に依る。本資料に振り仮名が存しない場合は、『善信聖人親鸞傳繪』の他の諸本に依る。

2. 排列は、最終音節までの五十音順とした。

3. 参照項目を設け、複合語の低位要素からも検索できるようにした。

4. 見出し語は、単語を原則とした。

a. 漢語にサ変動詞「す」の付いた形は、一語として扱った。

- b. 漢語に助動詞「なり」「たり」の付いた形は、二語として扱った。
- c. 和語を語幹とするいわゆる形容動詞は、一語として認めた。
- d. 引用されている書名などは、単語に分割せず、そのままの形で掲出した。

一、用例について

1. 用例は、「翻字本文」に基づいて掲出した。
2. 用例の引用は、以下の通りとした。
  - a. 自立語・付属語とも、原則として当該語のみを示した。
  - b. ただし、活用語は、その用法に応じて下接語（または語句）も示した。
3. 用例の排列は、以下の通りとした。
  - a. 活用しない語は、出現順に排列した。
  - b. 活用語は、未然形・連用形・終止形・連体形・已然形・命令形の順に排列した。
  - c. 同一単語で用例の表記が全同の場合は、初出例の下に所在を記すにとどめた。

一、用例の所在について

1. 用例の所在は、「翻字本文」に基づいて記した。
2. 漢数字は、底本の巻（第一巻〜第五巻）である。
3. 算用数字は、各巻での通し行数である。
4. 行間の注の所在は、本行所在算用数字の下に「右」「左」と書いて示した。

一、本索引は、佐々木勇・佐藤理絵・寺田守・田中哲宙・森田朋子で作成した。

一、索引作成の手順、製版のものとのファイル作成は、寺田守提案の方式がとられ、入力全般に亘って同氏の尽力が大きかった。



あ

あうぎ (奥義)	アウキ	あつまる (集)	アツキ	あゆみよる (歩奇)	
奥義	二一	集たまひけり	一五八左	あゆみよりつゝ	四三
あがむ (崇)		あつまれる	四七	あらたむ (改)	
崇たまふ	二七	あと (跡)	四三	改 <sup>アツキ</sup>	一五三
あきらか (顯)		跡 <sup>アツキ</sup>	四三	改 <sup>アツキ</sup> て	二一五
顯	五三	蹤 <sup>アツキ</sup>	四三	あらためて	四二六
あきらかなり (明)		あなん (阿難)	四三二五三	あらはす (著)	五一八
明なり	一八	阿難	四七八	あらわさんか	六一
アキラカナリ	四七左	あに (兄)		あらわさす	五四
アキラカナル	四七四	兄 <sup>アツキ</sup>	一一左	あらはし	二七六
あくまで 《副詞》		あに 《副詞》	一一左	あり (有) ↓しかあり・しか	
飽 <sup>アツキ</sup> まで	二九	豈 <sup>アツキ</sup>	二四二	あるに・しかあれば	
あそびす (遊)		あはくじゆさむゐ (阿伯從三位)	一一左	あらずよりは	二二
あそひし	四三九	阿伯從三位	一一左	あらめ	二九一
あた (怨)		あひぐす (相具)	一一	あらず	二一〇五
怨 <sup>アツキ</sup>	三九	相具したてまつりて	一一	非 <sup>アツキ</sup>	四四九
あたる (當)	四二	あひだ (間)	一一	あらて	三二
當 <sup>アツキ</sup>	五二〇	あひた	二七	ありて	二七三
あづかる (預)		あひた	二七	ありき	四二二
預 <sup>アツキ</sup>	二一〇	間 <sup>アツキ</sup>	二七	有 (用)	五三三
あつし 《形容詞》		あひまつ (相待)	二七	あり (止)	四三
			二七	あり (止)	四一八
			二七	あり (止)	四三
			二七	あり (止)	六〇
			二七	あり (止)	六五

ありと 二五二 三二四 四七  
あるへからず 二八四  
ありくに(有國) アリクニ 一  
有國 有國 一  
ありのままに《副詞》  
ありのまゝに 四二  
ありのり(有龜) アリノリ 一  
有龜 有龜 一  
あるいは《接続詞》  
アルイハ 一四三 一一  
或は アルイハ 二七五 七六  
あるとき(或時) アルトキ 二二 三三 三八 四六一  
或時 或時 二二 三三 三八 四六一  
あるひ(或日) アルヒ 四三  
或日 或日 四三  
あんず(安) アンズ 五二  
安す 安す 五二  
あんず(案) アンズ 一四九  
案するに 案するに 一四九  
案に アンズ 四一七  
案に 案に 四一七  
あんないす(案内) アンナイ 四三五  
案内し給ふに 案内し給ふに 四三五

い  
いうせい(幽栖) イウセイ 四三  
幽栖 幽栖 四三  
いかでか《副詞》 イカデカ 一五九 二八七  
いかでか いかでか 一五九 二八七  
いかり(忿) イカリ 三九  
忿 忿 三九  
いきどほり(鬱) イキドホリ 二七六 左  
イキトフリ 二七六 左  
鬱 鬱 二七六 左  
いぎやう(易行) イギヤウ 三三  
易行 易行 三三  
いぎやうだう(易行道) イギヤウダウ 二四  
易行 易行 二四  
いくせんばん(幾千萬) イクセンバン 二二  
千 千 二二  
幾千萬 幾千萬 二二  
いげ(已下) イゲ 二八〇  
已下 已下 二八〇  
いささか《副詞》 イササカ 四四〇 五一  
いささか いささか 四四〇 五一  
いささかも《副詞》 イササカモ 四四〇 五一  
いささかも いささかも 四四〇 五一

いささかも 二八三  
いしゆ(意趣) イシユ 二五一  
意趣 意趣 二五一  
いたじきやま(板敷山) イタジキヤマ 四一四  
板敷山 板敷山 四一四  
いたす(致) イタス 二五四  
いたすへしと いたすへしと 二五四  
いたすへき いたすへき 四四二  
いたすところ いたすところ 二七〇  
いたたく(戴) イタタク 二七〇  
戴 戴 二七〇  
いたみ(痛) イタミ 一七  
痛 痛 一七  
いたる(至) イタル 五三  
いたりては いたりては 五三  
至(用) 至(用) 五三  
いち(市) イチ 五三七  
市 市 五三七  
いちうす(移住) イチウス 四四  
移住したまひき 移住したまひき 四四  
いちかう(一向) イチカウ 四七五 七九 八七  
一向 一向 四七五 七九 八七  
いちかうせんじゆ(一向専修) イチカウセンジユ 四七五 七九 八七

いちかみせんじゆ 四九  
一向専修 一向専修 四九  
いちかうせんねむ(一向専念) イチカウセンネム 四八〇  
一向専念 一向専念 四八〇  
いちごん(一言) イチゴン 二六八  
一言 一言 二六八  
いちさい(一切) イチサイ 一四〇  
一切 一切 一四〇  
いちし(一師) イチシ 二四五  
一師 一師 二四五  
いちしむ(一心) イチシム 四七八  
一心 一心 四七八  
いちしやう(一生) イチシヤウ 四三七  
一生 一生 四三七  
いちしゆ(一宗) イチシユ 四七一  
一宗 一宗 四七一  
いちにん(二人) イチニン 四一一  
二人 二人 四一一  
いちぶちみやう(一佛名) イチブチミヤウ 一七四  
一佛名 一佛名 一七四

いちもん(一門) <small>いちもん 一門</small>	49	いにしへ	456 514	いま	53 482 515	隠居したまふ <small>イムキョウ</small>	42
いつか(五日)	31	いはく(云) <small>イハク</small>	32	今 <small>イマ</small>	75 35 48 66 70	いんぎん(慇懃) <small>イムキム</small>	43
五日	31	云 <small>ク</small>	52 5 53 62 65 73 88	今 <small>イマ</small>	538	いんだう(引導) <small>インダウ</small>	38 70
いづ(出)	30	云 <small>ク</small>	99 34 47 42 64	イマシメ	422 左	引導 <small>インダウ</small>	38 70
出 <small>イデ</small>	30	いはれ(言)	85	いまだ《副詞》	445	いんとん(隱遁) <small>イムン</small>	19
いづれ(何)	57 480	いはれ	87	いまた	445	いんにふす(引入) <small>インニフス</small>	86
いづれも(何)	64	いふ(云・者)	21 21 47 74	いみな(諱) <small>イミナ</small>	3 8 16	引入せんとなり <small>インニセン</small>	86
いであふ(出會)	40 20	者 <small>モノ</small>	17	いやし《形容詞》	533	う	
出會たまひにけり <small>イデアヒ</small>	438	云 <small>ク</small>	48	荷(止)	32 左		
出會 <small>イデアヒ</small>	37	いふこと	33 5 16 24	イヤシキ	51	う(得)	59
いと《副詞》	37	云(体)	4 2 14 60	いよいよ《副詞》	51	得ん	59
いと	37	云やう	38	いよく	51	得ざる	59
いとま(遠)	28	いへ(家)	30	いる(入)	21	う(獲) <small>ウ</small>	21
遠 <small>イトマ</small>	28	家 <small>イヘ</small>	30	入しより	21	獲 <small>ウ</small>	21
いなだのがう(稲田郷)	2	いへども《助詞》	21	いろ	76 425	うかがふ(伺)	13
稲田郷 <small>イナダノカウ</small>	2	いへども	21	いろいろに《副詞》	450	うかゝいたてまつる	13
稲田郷	2	雖 <small>イトモ</small>	21	いろく	50	うきやう(右京)	13
いにしへ(古)	25	いへとも	37 46 68 321	因 <small>イナ</small>	9	うく(受)	54 左
古 <small>イニシヘ</small>	25	4 3 4 16 24 74 528	21	いん(因)	9		
いにしへ	78	54	34	いんきよす(隱居)	9		
イニシへ	78	54	34				

受 <sup>タ</sup>	二 37	ウツリスム	四 54左	影 <sup>ネ</sup> 像	五 20	をきて	四 66
うけし	四 7	うつる (移)		えいにん (永仁)		おきな (翁)	四 36
うけし	五 14	うつり	二 40	永仁	五 36	おきな	四 39
ウク	五 25左	うとし《形容詞》 球 <sup>マ</sup> シト	二 21	えちこのくに (越後國)	三 15 四 1	おくおく (億億)	四 67
うけふ (右脇)		うま (午) ↓むま		越後國		億々	
右脇	五 6	うみ (海)		えつす (詈)	四 18	おくる (送)	四 32
うけたまはる (承)	二 93	海 <sup>ミ</sup>	一 54	詈せんと		送て	
承しより		うやまふ (敬)	二 75左	えびす (狄)	一 32左 32左	おくる (興)	一 52
うじやう (有情)	一 44 47	ウヤマフ	四 36	エビス	一 10 二 24	おくさ (抑)	二 24
有情		うるはし《形容詞》		えん (縁)		おさむ (収)	五 12
ウシヤウ		うるはしく	二 10	縁 <sup>ミ</sup>		おさめ	五 9
うだいじん (右大臣)	一 4	うるふ (聞)		えんぎ (縁起)	一 26	おしこち (押小路)	
右大臣		問 <sup>ク</sup> ル		えんぐあん (淵源)	五 31	押し小路	
うち (中)	一 9	うんぬん (云云)		淵源	一 26	おしへ (誨・訓)	
中 <sup>ナ</sup>		云々	61 66 109 三 14 四 12 69	えんにんじ (延仁寺)	五 10	おしへ	三 38 45
うちまる (内麿)	一 4	え		延仁寺		訓 <sup>シ</sup> へ	四 61
内麿 <sup>ウチマロ</sup>				お		オシへ	五 25左
うつくわい (鬱悔)	二 76	えいかむ (叡感)		おうしよう (應鐘)	五 36	おそらくは《副詞》	
鬱悔 <sup>ウツクワイ</sup>		叡 <sup>イ</sup> 感	二 20	應鐘		恐は	二 69
うつつ (現)		えいざう (影像)		おきて《連語》		おどろく (驚)	
うつつ	四 41						

おとろける	四 24	おほす(仰)	一 52	思出 <small>オモヒデ</small>	二 49	恩 <small>オン</small>	一 78
おなじ《形容詞》		被二仰 <small>ラシテオモセ</small>	一 52	おもふ(思)	二 49	おんきよ(恩許)	
をなしく	二 47	6 42 64	二 73 99 四	思 <small>オモヒ</small>		恩許 <small>オンキョ</small>	二 2
同 <small>オホシキ</small>	二 7 9 15 5 12 18	おほせられ	二 54	おもふに	四 51	おんけん(隠顯)	
同 <small>オホシキ</small>		おほたに(大谷)		思ふ(体)	二 52	隠顯 <small>オンケン</small>	四 74
同(体)	二 10	大谷 <small>オホクニ</small>	五 12 17	おもふ(体)	四 19	おんじよ(恩恕)	
おのおの(各各)	五 38	おほぶのがう(大部郷)	四 59	思 <small>オモヒ</small>	四 40	恩恕 <small>オンショ</small>	二 6
おのく	二 58	おほやけ(公)	四 59	おもむく(赴)		おんち(恩致)	一 67
をのおの	四 57	オホヤケ	二 28 左 四 88 左	おもむかんとなり	一 24		
各、	四 71	おほゆ(寛)	一 48	赴かんや <small>オモム</small>	一 65	か	
をのく	五 14	おほえて		おもむかすは	一 65		
おはします(御座)	二 106	おほよそ《副詞》	二 25 四 10	赴まし <small>オモムキ</small>	四 31	か《助詞》	一 66 二 44 71
おはしますさん		おほよそ	五 27	おもんず(重)			
おほきなり(浩)	三 20	凡 <small>オホヨソ</small>	二 27	重して	五 25	か	
おほきに	一 78	おむでし(御弟子)	二 50	重する <small>オモク</small>	二 28	が(我) ↓ われ	一 37 四 67
浩なる		御弟子 <small>オムデシ</small>		おもんみる(以)		我 <small>カ</small>	
おほけなし《形容詞》	二 91	おむまへ(御前)	二 79	以 <small>オモレハ</small>	三 4	が《助詞》	
おほかりし	二 80	御前 <small>オムマヘ</small>		および(及)	四 31	か	一 61 79 二 50 70 83 96 103
おほし	二 45 五 28	おもし《形容詞》 ↓ おもんず	四 18	及 <small>オヨビテ</small>	四 34	がいしむ(害心)	四 13 21
多し <small>オホシ</small>		おもひ(思)		をよむて		害心 <small>カイシム</small>	
		思 <small>オモヒ</small>		おん(恩)	一 58 左	がう(郷) ↓ いなだのがう・	
		おもひで(思出)		オム		おほぶのがう	

かうかく(行客)	かうさん(高山)	がうす(号)	号(止)	号(止)	号(止)	号す(止)	かうぶる(蒙)	蒙て	蒙	蒙(止)	かうふるに	かうみやう(告命)	かうみやうす(告命)	告命して	かうめい(告命)	告命	かうめい(教命)
			1	4	3	8	16										
	44											14	2	6	21	41	36
																	47

教命	かうもん(衡門)	がが(峨峨)	峨々	かかはる(拘)	拘 <small>カウワリ</small> て	かかると	かかると	かき(柿)	柿	かく(書)	令三書 <small>シムカク</small>	令三書 <small>シムカク</small>	令三書 <small>シムカク</small>	令三書 <small>シムカク</small>	令三書 <small>シムカク</small>	書戦たまふ	書戦たまふ	書(止)	かく(掛)	かけ	がくさん(岳山)	
	18										9	11	15	11	4	67	19	38			30	

岳山	がくと(學徒)	覚如	かくべち(各別)	各別	かげ(影)	カケ	かさまのこほり(笠間郡)	笠間郡	かしこ(彼此)	かしこ	かしこし《形容詞》	かしこくて	かず(数)	かず	かすかなり(幽)	カスカナル	かた(方)	かた	かたし《形容詞》	難
	43																			

かたし	かたじけなし《形容詞》	忝 <small>カタクシテナク</small>	かたち(形)	形	かたはら(傍)	傍 <small>カタハラ</small>	かたぶく(傾)	かたぶき	カタフキ	かつ(可通)	可通	かつは《副詞》	且は	かつう(河東)	河東	かなしむ(悲)	悲 <small>カナシム</small>	かならず《副詞》	必 <small>カナラズ</small>	かねさね(兼實)	カネサネ	かの(彼)
	42																					

彼カ	一 32 49 73 四 15 71 五 25	かむがふ(考)	カ、	三 11	き(機)	きかしむへし	一 41
かの	一 46	考カ、			機キ	きかしめ	一 47
かのとのひつじ(辛未)		かむなぎ(巫)	カムナキ	四 38	き(記)	きざす(兆)	
辛トヒシ	三 17	巫カムナキ		四 38	記キ	きざし	一 9
かはりあふ(替合)		かる(駆)	カレ	四 38左	き(氣)	きすい(奇瑞)	
かはりあふて	一 106	駆カレ		四 62	氣キ	奇瑞キ	一 50
かはる(替)		かる(駆)	カレ	四 89左	き《助動詞》	きた(北)	
かはると	二 99	かるがゆゑに《接続詞》		四 82	き	きた(北)	二 32左
かはるへからず	二 104	かるかゆへに		一 76 四 82	一 13 二 22 三 32	北キ	五 12 一 17 一 19
かはるところ	二 83 一 97	故に	カレヘ	二 48	一 8 二 10 三 56	きとく(奇特)	四 18 五 27
かへりみる(願)		故に	カレヘ	二 96	93 98 四 7 二 28 五 7 五 14	奇特キ	
願(体)	五 35	かんえう(簡要)	カヌウ		一 14 三 11	きのとうし(乙丑)	二 6
かへる(歸)		簡要	カヌウ	二 18	義キ	きのとのひつじ(乙未)	
歸カヘ	四 51	かんふ(肝腑)	カンフ	四 73	一 18 三 9 四 10 七 74	乙未	五 36
かまこ(鎌子)	一 3	肝腑	カンフ		義	ぎばう(疑謗)	
鎌子		かんりむ(翰林)	カンリム	五 32	きつこく(九棘)	疑謗	四 10
かまふ(稱)	一 73	翰林			九(平)棘(入)	きはむ(宥)	
かまへす		かんみんだいじん(閑院大臣)	カンミンダイジン	四 4	きうせむ(弓箭)	きわめて	一 27
かみ(守)	一 11	かんみんだいじん(閑院大臣)	カンミンダイジン		弓箭	きみ(公)	
守カミ		大臣	カインシ	一 4	弓箭	きむげん(金言)	四 70
かみ	一 13左	き			起行		
かむおう(感應)	四 48	き			起行		
感應		きく(聞)			起行		

きむじやう (今上)	キムジヤウ	今上	三 8	きやうろん (經論)	キヤウロン	經論	一 52	くうし (空師)	クウシ	空師	三 2	救世菩薩	クセホボサツ	一 33
きむず (禁)	キムズ	禁	四 22	きやくじん (客人)	キヤクジン	客人	四 43	くうしやうにん (空聖人)	クウシヤウニン	空聖人	三 14	降て	クワシテ	二 3
きむめいてんわう (欽明天皇)	キムメイテンワウ	欽明天皇	一 55	きよ (居)	キヨ	居	四 56	くぎやう (公卿)	クギヤウ	公卿	二 30	くだし	クダシ	三 20
きやう (卿)	キヤウ	卿	一 5 11	きよう (御宇)	キヨウ	御宇	一 55	くぎやうす (恭敬)	クギヤウス	恭敬	四 48	くだる (降)	クダル	二 75
郷 (卿)	キョウ	郷	三 18	きよしよ (居緒)	キヨシヨ	居緒	三 13	くくあつ (口決)	ククアツ	口決	四 57	くだる (降)	クダル	二 75
ぎやう (行)	ギヤウ	行	三 6	きりよく (記録)	キリヨク	記録	一 49	くげ (公家)	クゲ	公家	二 7	くだり	クダリ	一 22
ぎやうおう (饗應)	ギヤウオウ	饗應	四 44	きる (切)	キル	切	四 26	くち (口)	クチ	口	二 109	くだん (件)	クダン	四 62
ぎやうげん (狂言)	ギヤウゲン	狂言	五 32	きんしん (近臣)	キンシン	近臣	一 11	くち (口)	クチ	口	二 109	くだん (件)	クダン	四 62
ぎやうじや (行者)	ギヤウジヤ	行者	一 36 75	きんしん (近臣)	キンシン	近臣	一 11	くち (口)	クチ	口	二 109	くだん (件)	クダン	四 62
ぎやうしやく (經釋)	ギヤウシヤク	經釋	四 69	きんしん (近臣)	キンシン	近臣	一 11	くち (口)	クチ	口	二 109	くだん (件)	クダン	四 62
ぎやうしよう (行證)	ギヤウシヤウ	行證	三 4	ぐあん (愚案)	グアン	愚案	五 35	くつ (屈)	クツ	屈	二 75	くだん (件)	クダン	四 62
ぎやうふたい (行不退)	ギヤウフタイ	行不退	一 56 64	くう (空)	クウ	空	一 9	くつしやうす (屣請)	クツシヤウス	屣請	四 48	くだん (件)	クダン	四 62

專修寺蔵『善信聖人親鸞傳繪』翻刻並びに索引



くねん(九年)	クネン	九年	くわうてい(皇帝)	クワウタイ	皇帝	クワンハク	くゐす(歸)	クヰス	クワンハク	二七左	決 <small>クエチヤウ</small> 定 <small>テイ</small> しまし <small>シ</small> けり <small>ケリ</small>	一三〇
くぼむ(九品)	クボム	九品	くわうとく(廣徳)	クワウトク	廣徳	歸 <small>クヰシキ</small> し <small>シ</small> つ <small>ツ</small>	くゐんきう(元久)	クヰンキウ	くゐんきう(元久)	二二八	元 <small>クヰンキウ</small> 久 <small>キウ</small>	二六
ぐまい(愚昧)	グマイ	愚昧	くわしやう(和尚)	クワシヤウ	和尚	歸 <small>クヰス</small> せん <small>セン</small>	くゐんくう(源空)	クヰンクウ	源 <small>クヰンクウ</small> 空 <small>クウ</small>	一六三 二一七 三〇三	源 <small>クヰンクウ</small> 空 <small>クウ</small>	一〇三
くまの(熊野)	クマノ	熊野	くわしやうゐ(和尚位)	クワシヤウヰ	和尚位	くゐせん(貴賤)	くゐんくうしやうにん(源空)	クヰンクウシヤウニン	くゐんくうしやうにん(源空)	二三四 四四	聖 <small>クヰンクウシヤウニン</small> 人 <small>ニン</small>	二〇 二五
くゆ(悔)	クユ	悔	ほふいんくわしやうゐ	ホフインクワシヤウヰ	ほふいんくわしやうゐ	くゐそ(貴僧)	くゐんくうほふし(源空法師)	クヰンクウホフシ	くゐんくうほふし(源空法師)	四四	源 <small>クヰンクウ</small> 空 <small>クウ</small> 法師 <small>ホフシ</small>	三〇
くらし《形容詞》	クラシ	《形容詞》	くわもん(華文)	クワモン	華文	くゐばう(貴坊)	くゐんそん(玄孫)	クヰンソン	くゐんそん(玄孫)	一四	玄 <small>クヰンソン</small> 孫 <small>ソン</small>	一四
昏 <small>クラク</small>	クラク	昏	くわん(願)	クワン	願	くゐよくによしん(玉女身)	くゐんふう(玄風)	クヰンフウ	くゐんふう(玄風)	一三	玄 <small>クヰンフウ</small> 風 <small>フウ</small>	一五
昏 <small>クラキ</small>	クラキ	昏	くわんおむ(觀音)	クワンオム	觀音	くゐ(化)	くゐんきよ(群集)	クヰンキョウ	くゐんきよ(群集)	一三	群 <small>クヰンキョウ</small> 居 <small>キョウ</small> す <small>ス</small> と	二六八
冥(体)	メイ	冥(体)	くわんかい(願海)	クワンカイ	願海	くゐ(化)	くゐんし(化身)	クヰンシ	くゐんし(化身)	一六八	化 <small>クヰンシ</small> 身 <small>シ</small>	一六八
くろたに(黒谷)	クロタニ	黒谷	くわんぎやう(觀經)	クワンギヤウ	觀經	くゐ(化)	くゐんしやう(群生)	クヰンシヤウ	くゐんしやう(群生)	一六六	群 <small>クヰンシヤウ</small> 生 <small>シヤウ</small>	一四四
くわうだい(廣大)	クワウダイ	廣大	くわんぎやう(觀經)	クワンギヤウ	觀經	くゐ(化)	くゐんしやう(群生)	クヰンシヤウ	くゐんしやう(群生)	一六六	群 <small>クヰンシヤウ</small> 生 <small>シヤウ</small>	一四四
くわうたいし(皇太子)	クワウタイシ	皇太子	くわんばく(關白)	クワンバク	關白	くゐ(化)	くゐんしやう(群生)	クヰンシヤウ	くゐんしやう(群生)	一六六	群 <small>クヰンシヤウ</small> 生 <small>シヤウ</small>	一四四
皇太后宮	クワウタイコウ	皇太后宮	くわんばく(關白)	クワンバク	關白	くゐ(化)	くゐんしやう(群生)	クヰンシヤウ	くゐんしやう(群生)	一六六	群 <small>クヰンシヤウ</small> 生 <small>シヤウ</small>	一四四
后宮	クワウタイコウ	后宮	くわんばく(關白)	クワンバク	關白	くゐ(化)	くゐんしやう(群生)	クヰンシヤウ	くゐんしやう(群生)	一六六	群 <small>クヰンシヤウ</small> 生 <small>シヤウ</small>	一四四
皇太子	クワウタイシ	皇太子	くわんばく(關白)	クワンバク	關白	くゐ(化)	くゐんしやう(群生)	クヰンシヤウ	くゐんしやう(群生)	一六六	群 <small>クヰンシヤウ</small> 生 <small>シヤウ</small>	一四四

け

けいす <small>(詣)</small>	蓋 <small>カケ</small>	78
詣せん	げだち <small>(解脱)</small>	490
詣へし	解 <small>ケツ</small> 脱 <small>ダツ</small>	42
詣す	けちえん <small>(結縁)</small>	83 85
けう <small>(希有)</small>	結縁 <small>ケツ縁</small>	43
希有	けつく <small>(結局)</small>	13
けう <small>(教)</small>	結局 <small>ケツク</small>	19
教 <small>ケウ</small>	けふ <small>(今日)</small>	56
げうかう <small>(曉更)</small>	今日 <small>ケウ</small>	26 36
曉更	けふし <small>(脇士)</small>	75
けうくゑ <small>(教誨)</small>	脇士 <small>ケフシ</small>	34
教誨	けり <small>(助動詞)</small>	30 110 23 40
けうしゆ <small>(教主)</small>	けり	31 59
教主	けり	3 3
けさ <small>(袈裟)</small>	ける	15
袈裟	げろん <small>(戲論)</small>	32
げしじふ <small>(下至十)</small>	戲論	37
下至十	げん <small>(間)</small>	17
げじゆん <small>(下旬)</small>	間 <small>ケン</small>	37
下旬	げんじち <small>(兼實)</small>	17
けだし <small>(副詞)</small>	兼實 <small>ケンジチ</small>	17
	けんしや <small>(見寫)</small>	17

見寫 <small>ケンシヤ</small>	22
------------------------	----

けんじや <small>(賢者)</small>	54
--------------------------	----

賢者	54
----	----

けんじやうどほうべんくゑし	54
---------------	----

けんじやうどほうべんくゑし	54
---------------	----

んどのもんるい <small>(頭淨土方便化身土文類)</small>	4
-------------------------------------	---

頭淨土方便化身土文類	4
------------	---

けんじやうどほうべんくゑし	4
---------------	---

んどもんるい <small>(頭淨土方便化身土文類)</small>	4
------------------------------------	---

頭淨土方便化身土文類	4
------------	---

けんしやうどほうべんくゑし	4
---------------	---

んどもんるい <small>(頭淨土方便化身土文類)</small>	4
------------------------------------	---

けんしやうどほうべんくゑし	4
---------------	---

んどもんるい <small>(頭淨土方便化身土文類)</small>	4
------------------------------------	---

けんしやうどほうべんくゑし	4
---------------	---

んどもんるい <small>(頭淨土方便化身土文類)</small>	4
------------------------------------	---

けんしやうどほうべんくゑし	4
---------------	---

んどもんるい <small>(頭淨土方便化身土文類)</small>	4
------------------------------------	---

けんしやうどほうべんくゑし	4
---------------	---

こ

こ <small>(子)</small>	6
子	6
こう <small>(候)</small>	39 51
候	39 51
こうあい <small>(矜哀)</small>	1
矜哀	1
こういん <small>(後胤)</small>	5
後胤	5
こうぎやう <small>(興行)</small>	1
興行	1
こうぎやうす <small>(興行)</small>	71
興行す	71
こうくわい <small>(後悔)</small>	22
後悔	22
こうけん <small>(後見)</small>	34
後見	34
こうす <small>(興)</small>	21
興	21
こうそん <small>(公孫)</small>	4
公孫	4

專修寺藏『善信聖人親鸞傳繪』翻刻並びに索引



此來 <small>ココヨク</small>	52	金剛 <small>コウカウ</small>	270
このころ <small>ココロ</small> (今此)		こむねん <small>コムネン</small> (今年)	
今一此 <small>イマココ</small>	456	今年 <small>コトシ</small>	216
このとき <small>コトキ</small> (此時)		こやく <small>コヤク</small> (巨益)	
此時 <small>コトキ</small>	157 138 46 520	巨益 <small>コヤク</small>	465
このとき	275	こゆ <small>コユ</small> (越・超)	
このほか <small>コノホカ</small> (此外)		越 <small>コエ</small>	41
此外 <small>コノホカ</small>	215	超 <small>コエ</small> (超・超)	522
このゆゑ <small>コノユヱ</small> に《副詞》		超 <small>コエ</small> (超・超)	522
このゆへ <small>コノユヘ</small> に	69	これ <small>コレ</small> (是・此・茲・斯・之)	
是故 <small>コノユヘニ</small>	212	是 <small>コレ</small>	12 22 39 53 72 119 23
所以 <small>コノユヘニ</small> に	471	これ <small>コレ</small>	23 69 32 44 29 47 55 77
このゑ <small>コノヱ</small> (近衛) ↓このゑ		これ <small>コレ</small>	27 56 67 27 27 32
こひち <small>コヒチ</small> (御筆)		此 <small>コレ</small>	33 45 67 47 6 51 27 29
御筆 <small>コヒチ</small>	215	茲 <small>コレ</small>	39 46 69
こふ <small>コフ</small> (業)		斯 <small>コレ</small>	71 78 219
業 <small>コフ</small>	218	之 <small>コレ</small>	71 78 219
こほり <small>コホリ</small> (郡) ↓かさまのこほり		之 <small>コレ</small>	9 44 316 479
り・なかのさいのこほり		コレ	478
こむあん <small>コムアン</small> (今案)		之	538
今案 <small>コムアン</small>	73	之	533
こむがう <small>コムガウ</small> (金剛)		之	533
		孤嶺 <small>コレイ</small> (孤嶺)	434

ころ <small>コロ</small> (比) ↓このころ・そのころ		在國 <small>サイコク</small> し給けり	22
比 <small>コロ</small>		さいしやう <small>サイシヤウ</small> (宰相)	
ころ <small>コロ</small>	11 517	宰相 <small>サイシヤウ</small>	5
ころ <small>コロ</small>	19	さいしやう <small>サイシヤウ</small> (在生)	
ころも <small>コロモ</small> (衣)		在生 <small>サイシヤウ</small>	25 57
衣 <small>コロモ</small>	26	さいしやうぶち <small>サイシヤウブチ</small> (在成佛)	
こゑ <small>コエ</small> (聲)		在成佛 <small>サイシヤウブチ</small>	23
聲 <small>コエ</small>	4	さいしやう <small>サイシヤウ</small> (最勝)	
ごんげん <small>ゴンケン</small> (權現)		最勝 <small>サイシヤウ</small>	19
權現 <small>ゴンケン</small>	42	さいせい <small>サイセイ</small> (在世)	
ごんのゑ <small>ゴノヱ</small> (近衛)		在世 <small>サイセイ</small>	11 514 22
近衛 <small>ゴノヱ</small>	4	さいてん <small>サイテン</small> (西天)	
さ		西天 <small>サイテン</small>	52
ざ <small>ザ</small> (座) ↓ござ		さいみやう <small>サイミヤウ</small> (罪名)	
座 <small>ザ</small>	57 64 66 74	罪名 <small>サイミヤウ</small>	14 15
さい <small>サイ</small> (歳) ↓ごさい		さう <small>サウ</small> (草)	
さい <small>サイ</small>	57 64 66 74	草 <small>サウ</small>	37
さいくわ <small>サイクワ</small> (罪科)		さうおうす <small>サウオウス</small> (相應)	
罪科 <small>サイクワ</small>	11	相應 <small>サウオウス</small> すれば	65
さいくわす <small>サイクワス</small> (罪科)		さうす <small>サウス</small> (葬)	
罪科 <small>サイクワス</small> せらるへき	2	葬 <small>サウス</small> したてまつる	11
さいこくす <small>サイコクス</small> (在國)		さうせち <small>サウセチ</small> (霜雪)	
在國 <small>サイコク</small>			

霜雪 <small>サウキ</small>	一七	さどのあん (佐渡院)	三二六	さむしふ (参集)	二五〇	じ《助動詞》「打ち消し」「終止形」	二一〇八
さうでん (相傳)	五二〇	佐渡院		参集		し	
相傳		さとの (論)	二一九	さむしむ (三心)	四七七	じ (字)	
さうなし《形容詞》		論		サムシム		字	二八 一五 一六 三二 一三 一九
左右なく	四二〇	さねたて (真楯)	一	さむねん (三年)	一三一	しうねむ (宿念)	四五
さかひ (塙)		真楯		三年		宿念	
塙	四三〇	ざふぎやう (雜行)	二六	さむはい (三輩)	四七五	しうほう (宿報)	一三六
さかりなり (煽・盛)	一七二	雜行		サムハイ		宿報	
煽なり		さまさまに《副詞》	四四九	さむびやくはちじふよにん (三百八十余人)	一三六	しかあり (然) ↓ しかり	二三六
盛 <small>オカム</small>	三五	さままくに		三百八十余人		しかあり	
盛 <small>オカシナリ</small>		さままくに		さむびやくよにん (三百余人)	二五八	しかあるに《接続詞》 ↓ し	二四四
盛 <small>オカリナル</small>	五二二	さままくに		三百余人		しかあるに	
さき (前)	一一七	覚 <small>サメ</small>	四四八	さら	一七三 四一六 一七二	しかあれば《接続詞》 ↓ し	二四四
サキ		覚 <small>サメ</small>		さら	一六八 一〇四	しかあれば	一四八 一八七
前 <small>サキ</small>	一一二	さむ (三) ↓ しちじゆんさむ	四四四	さら	四九〇	しがう (紫毫)	五三二
さきやう (左京)	四四左	さむぎやう (三經)	四七四	さら		紫毫	
左京		三經		さら		しかしながら《副詞・接続詞》	一七二
さしおく (閑)	二二九	サムキヤウ		さら		併	五二九
閑 <small>サシオイ</small>		サムキヤウ		さら		併	
閑 <small>サシオイ</small>		サムキヤウ		さら		併	
さしはさむ (挿)	四一三	サムキヤウ		さら		併	
挿 <small>サシハサ</small>		サムキヤウ		さら		併	
さだいじん (左大臣)	一四七	サムコク	四七一	さら		併	
左大臣		サムコク		さら		併	
左大臣		サムコク		さら		併	

如之 <small>シカノミナラヌ</small>	二 32	しく(如) 如 <small>シカク</small>	自宗 <small>シニジ</small>	四 73	して《接続助詞》	
しかり(爾・然) ↓しかれば <small>シカリシ</small>	一 14	しぐわち(四月)	じしん(侍臣) 侍臣 <small>シニシ</small>	三 20	して 一 23 42 51 四 9 16	
然(止) 然 <small>シカル</small>	五 34	四月	しそ(緇素) 緇素 <small>シソ</small>	五 25	兮 <small>シ</small> 46 86	
然 <small>シカル</small>	二 53	しぐあち(子月) 子月 <small>シクエチ</small>	した(舌) 舌 <small>シタ</small>	二 109	しと(緇徒) 緇徒 <small>シト</small>	一 35
しかるに《接続詞》 ↓しかあ るに		しけう(四教) 四教 <small>シケウ</small>	じた(自他) 自他 <small>シタ</small>	二 47	しばらく《副詞》	一 14
然 <small>シカルニ</small>	二 5 3	しけう(師教) 師教 <small>シケウ</small>	したがふ(従) したがひ	四 89	しはらく 聖 <small>シハラク</small>	二 77
尔 <small>シカルニ</small>	二 22	じげん(示現) 示現 <small>シゲン</small>	したかひ	二 21	じふはうしゆじやう(十方 衆生) 十方衆生 <small>シフハウシユジャウ</small>	二 12
而 <small>シカルニ</small>	一 54 四 11 61 70 五 5	じげんす(示現) 示現して	したふ(慕) 慕 <small>シタフ</small>	四 58	じふひち(執筆) ↓ごしふひ ち	二 71
然 <small>シカルニ</small>	二 5 3	じげん(死罪) 死罪 <small>シゲン</small>	じちゆう(時中) 時中 <small>シチウ</small>	四 67	執筆 執筆 <small>シツビ</small>	五 37
然 <small>シカルニ</small>	四 72	しじふはちぐわん(四十八願) 四十八願 <small>シジフハチグワン</small>	しちぐわち(七月) 七月	二 10	しふゑ(集會) 集會 <small>シフエ</small>	二 55
しかれば《接続詞》 ↓しかあ れば	一 51 二 65 四 91	しじむ(自心) 自心 <small>シジム</small>	しちじゆんさむ(七句三) 七句三 <small>シチジユンサム</small>	二 16	じみやう(自名) 自名 <small>シミヤウ</small>	二 72
然者 <small>シカレハ</small>	二 94	しじゆ(旨趣) 旨趣 <small>シジユ</small>	じちん(慈鎮) 慈鎮 <small>シチン</small>	一 12		
しかれば	三 12	じしゆ(自宗) 自宗 <small>シシユ</small>				
尔者 <small>シカレハ</small>	四 80					
然 <small>シカレト</small>	一 4					
しきぶきやう(式部卿) 式部卿 <small>シキフキヤウ</small>	二 28					
しきむ(禁禁) 禁禁 <small>シキム</small>						
紫(志禁) 禁 <small>シ</small>						

しむ(ト・占)	シム	しやう(姓)	シヤウシヤ	聖者	シヤウシヤ	浄土	シヤウシヤ
トたまふ	シム	姓	シヤウ	じやうじゆす(成就)	シヤウシヤ	浄土	シヤウシヤ
占と	シム	じやう(生)	生	成就し	シヤウシヤ	浄土	シヤウシヤ
しむ《助動詞》	シム	じやう(聲)	じやう	じやうじゆん(上旬)	シヤウシヤ	じやうどしゆ(浄土宗)	シヤウシヤ
しめ	シム	聲	じやう	上旬	シヤウシヤ	浄土宗	シヤウシヤ
令	シム	じやう(成)	じやう	じやうしんぱう(聖信房)	シヤウシヤ	浄土真宗	シヤウシヤ
しむへしと	シム	成	じやう	聖信房	シヤウシヤ	じやうどもん(浄土門)	シヤウシヤ
令	シム	じやういちゐ(正一位)	じやういちゐ	じやうす(成)	シヤウシヤ	じやうにん(上人)	シヤウシヤ
令	シム	正一位	正一位	成したらむ	シヤウシヤ	んしやうにん・ほふれんし	シヤウシヤ
しむざん(深山)	シム	じやうえ(正依)	じやうえ	成すへからす	シヤウシヤ	やうにん・らんしやうにん	シヤウシヤ
深山	シム	正依	じやうぐうたいし(上官太子)	じやうすい(常随)	シヤウシヤ	上人	シヤウシヤ
しむし(参差)	シム	じやうぐうたいし(上官太子)	上官太子	常随	シヤウシヤ	じやうにん(聖人)	シヤウシヤ
参差	シム	上官太子	じやうくわう(上皇)	じやうそう(聖僧)	シヤウシヤ	やうにん・ぐゑんくうしや	シヤウシヤ
じむしむ(甚深)	シム	じやうくわう(上皇)	上皇	聖僧	シヤウシヤ	うにん・ぜんしんしやうに	シヤウシヤ
甚深	シム	上皇	じやうげう(聖教)	じやうそく(装束)	シヤウシヤ	ん・だいししやうにん	シヤウシヤ
しむちはくらん(深智博覧)	シム	じやうげう(聖教)	聖教	じやうそきたる	シヤウシヤ	聖人	シヤウシヤ
深智博覧	シム	聖教	じやうこふ(正業)	じやうだう(聖道)	シヤウシヤ	じやうみやう(姓名)	シヤウシヤ
しめす(示)	シム	正業	正業	じやうだうもん(聖道門)	シヤウシヤ	姓名	シヤウシヤ
示 給と	シム	じやうこむ(荘嚴)	莊嚴	聖道門	シヤウシヤ	じやうめん(正面)	シヤウシヤ
しめす	シム	莊嚴	じやうじや(聖者)	じやうど(浄土)	シヤウシヤ	正面	シヤウシヤ
じやう(上)	シム	上		↓ゆいじやうじ	シヤウシヤ		シヤウシヤ
上	シム				シヤウシヤ		シヤウシヤ

しやうれき (聖歴)	シヤウレキ	三 8	宗 <sup>ノ</sup>	じゆしゐ (從四位)	シユシキ	一 11	儒林	シユリム	三 6
聖歴				從四位				じゆりむ (樹林)	
じやうろん (諍論)	シヤウロン	二 81	從一位	じゆせんまんおく (數千萬億)	シユセンマク	一 44	樹林	じゆん (旬) ↓しちじゆんさ	二 29
諍論				數千萬億				む	
しやく (釋)	シヤク	二 59	終焉	じゆだう (修道)	シユダウ	四 68		じゆんず (順)	一 70
釋				修道				順て	
しやくくう (綽空)	シヤククウ	二 915	宗義	じゆつこん (出言)	シユツコン	二 51		しようがみやうがう (稱我名号)	二 12
綽空				出言				稱我名号	
しやくす (釋)	シヤクス	四 80	修行	じゆつす (述)	シユツス	四 24		しようぐゑん (承元)	三 8
釋す				述す				承元	
しやくもん (釋門)	シヤクモン	三 5	宿鬱	じゆつり (出離)	シユツリ	二 42		しようじやうす (證誠)	四 79
釋門				出離				證誠す	
じやしやう (邪正)	シヤシヤウ	三 6	取捨	じゆてき (戎狄)	シユテキ	二 32		しようじやうでん (證誠殿)	四 81
邪正				戎 (平過狄)				證誠殿	
しやす (謝)	シヤス	一 79	取捨	じゆとくす (受得)	シユトク	一 29		しようだう (證道)	三 5
謝せんか				受得し				證道	
しやべう (社廟)	シヤベウ	四 38	主上	じゆはい (數輩)	シユハイ	三 10		しようち (勝地)	四 55
社廟				數輩				勝地	
しやみほふりき (沙弥法力)	シヤミホフリキ	二 61	衆生	じゆひやくにん (數百人)	シユヒヤクニン	二 67		しようみやう (稱名)	五 5
沙弥法力				數百人				稱名	
しやりほち (舍利弗)	シヤリホチ	四 78	稱念	じゆまんす (充滿)	シユマンズ	五 23		しようりう (紹隆)	
舍利弗				充滿し					
しゆ (宗)			衆生	じゆりむ (儒林)	シユリム				
			衆生						



紹隆 シヨウリウ	一 25	しよみん (庶民) シヨウミン	親友 シシユウ	しんず (信) シシユ	四 61
しよか (初夏) シヨウカ	二 7	しよむ (所務) シヨム	しんえい (真影) シシエイ	信て シシテ	四 87
初夏 シヨウカ	二 7	しよめ (所為) シヨメ	真影 シシエイ	信して シシテ	四 87
しよげう (諸教) シヨウケウ	三 4	所為 シヨメ	しんか (臣下) シシカ	信するに シシ	二 105
諸教 シヨウケウ	三 4	所為 シヨメ	臣下 シシカ	しんせち (真説) シシセチ	四 70
しよじ (諸寺) シヨウジ	三 5	自力 シヨリキ	しんくう (信空) シシクウ	真説 シシセチ	四 70
諸寺 シヨウジ	三 5	自力 シヨリキ	信空 シシクウ	しんちよく (神勅) シシチヨク	四 47
しよしやす (書寫) シヨウシヤシ	二 22	しる (知) シラ	しんけ (真假) シシケ	神勅 シシチヨク	四 47
書寫 シヨウシヤシ	二 22	しる (知) シラ	しんけ (真假) シシケ	しんひち (真筆) シシヒチ	二 39 11
しよしよ (處處) シヨウシヨ	五 23	しらす シラサ	しんじち (真實) シシジチ	真筆 シシヒチ	二 39 11
處處 シヨウシヨ	五 23	しらす シラサ	しんじち (真實) シシジチ	しんふたい (信不退) シシフタイ	二 56 61 64 66 74
しよす (書) シヨウシキ	二 6	しるし (徽) シルシ	真實 シシジチ	信不退 シシフタイ	二 56 61 64 66 74
書 シヨウシキ	二 6	しるし (徽) シルシ	真實 シシジチ	しんもん (真文) シシモン	二 15
しよす (處) シヨウサ	一 64	しろし (形容詞) シロシ	しんじむ (信心) ↓ごしんじ シシジム	真文 シシモン	二 15
處 シヨウサ	一 64	しろし (形容詞) シロシ	しんじむ (信心) ↓ごしんじ シシジム	しんらん (親鸞) シシラン	一 177 二 55 72 78
處 シヨウサ	一 64	しろし (形容詞) シロシ	しんじむ (信心) ↓ごしんじ シシジム	親鸞 シシラン	一 177 二 55 72 78
しよほう (諸方) シヨウハウ	三 11	慈園 シエン	信心 シシシン	しんらんしやうにん (親鸞上人) シシランシヤウニン	二 5
諸方 シヨウハウ	三 11	慈園 シエン	信心 シシシン	しんらんしやうにん (親鸞上人) シシランシヤウニン	二 5
しよふち (諸佛) シヨウフツ	三 13	しん (信) シン	しんしゆ (真宗) シシシユ	親鸞上人 シシランシヤウニン	二 5
諸佛 シヨウフツ	三 13	しん (信) シン	しんしゆ (真宗) シシシユ	しんじゆん (信順) シシジユン	四 33
しよまう (所望) シヨウマウ	二 52	しんいう (辛酉) シシムイウ	真宗 シシシユ	しんじゆん (信順) シシジユン	四 33
所望 シヨウマウ	二 52	しんいう (辛酉) シシムイウ	真宗 シシシユ	信順 シシジユン	四 33
辛酉 シシムイウ	二 52	しんいう (辛酉) シシムイウ	真宗 シシシユ	しんじん (真信) シシジン	二 70
しんいう (辛酉) シシムイウ	二 52	しんいう (辛酉) シシムイウ	真宗 シシシユ	しんじん (真信) シシジン	二 70
しんう (親友) シシムイウ	二 52	しんう (親友) シシムイウ	真信 シシジン	しんじん (真信) シシジン	二 70

す(為) ↓あそびす・あひぐす・あんす・あんないす・いんきよす・いんにふす・えつす・おもんず・がうす・かうみやうす・きむす・くぎやうす・くしす・くつしやうす・くぬす・くゑす・くゑちちやうす・ぐんきよす・ぐんしふす・けいす・けんしやす・こうぎやうす・こうす・ざいくわす・ざいこくす・さうおうす・さうす・じげんす・しやうす・しやうず・じやうじゆす・しやくす・しやくす・じゆつす・じゆとくす・じゆまんす・しようじやうす・しよしやくす・しよす・しんず・せうめちす・せふざいす・せんしふす・せんせちす・せんねむす・せうたちす・せうもんす・たいす・たいちよす・ただしくす・たちす・たんだす・ちさむす・ちやくふくす・ちゆす・づぐわす・つみす・ていきふす・はいたいす・はんす・ひとしくす・ふ

がうす・ふぞくす・へむふす・ほうびす・ほちきす・まんぞくす・やうかうす・らいしす・らろうす・りやくす・わうへんす・ぬす  
 せむ 四 88  
 し侍らんか 二 50  
 し侍る 二 81  
 為<sup>ヌ</sup> 二 9 三 12  
 す《助動詞》「使役」  
 せたまふ 二 95  
 せたまはし 二 107  
 ず《助動詞》「打ち消し」↓  
 しかのみならず  
 すは 一 58 64 66  
 す 一 73 二 33 65 84 104 105 四 17 41 67 91 五 3 4 24  
 すよりは 二 42  
 不<sup>ヌ</sup> 三 6 10 五 28  
 ス 三 12 12  
 すと 五 15  
 不 五 32  
 さる 二 59

ゝ(き)るへき 二 89  
 さるに 四 45  
 さるそや 四 81  
 すいじやく(垂迹) 一 61 69 四 84 85  
 垂迹<sup>スイジツ</sup>  
 すくなし《形容詞》  
 少<sup>スクナク</sup> 四 11  
 すこぶる《副詞》  
 頗<sup>スコブル</sup> 四 18 五 22  
 すすむ(勸)  
 勸<sup>ススム</sup> 四 75  
 勸<sup>ススムル</sup> 四 72  
 すたる(廢)  
 廢<sup>スタル</sup> 三 5  
 すつ(棄・捨)  
 棄<sup>スツ</sup> 二 6  
 捨<sup>スツ</sup> 四 26  
 すでに《副詞》  
 既<sup>スデニ</sup> 二 22 四 8  
 巴<sup>スデニ</sup> 三 12  
 すてに 四 33  
 すなはち《接続詞》

則<sup>ソナヘ</sup> 一 22 四 80  
 即 一 56  
 即<sup>ソナヘ</sup> 一 60 二 53 四 73  
 すなわち 一 68 二 4 100  
 すべて《副詞》  
 都<sup>ソバテ</sup> 二 36  
 すへて 五 22  
 すまひ(栖)  
 スマイ 四 3 左  
 栖<sup>ソヒ</sup> 四 53  
 すむ(住) ↓うつりすむ  
 せ

せいかく(聖覺)  
 聖覺<sup>セイカク</sup> 二 60  
 せいきう(青宮)  
 青<sup>セイ</sup>宮<sup>キウ</sup> 二 28  
 せいぐわん(誓願)  
 誓願<sup>セイグワン</sup> 一 39 39 四 87  
 せいくわんばう(勢觀房)  
 勢觀房<sup>セイケンバウ</sup> 二 79

せいさく(製作)	二22	攝生	一28	せんぢやく(選擇)	二6	そう(僧)	二35左
製作		ぜんあく(善悪)		せんぢやくほんぐわんねむぶちしふ(選擇本願念佛集)		ソウ	
せいし(勢至)	一68	善惡	二102	せんぢやく(選擇)		僧	二12 四12
勢至		ぜんしち(禪室)		ちしふ(選擇本願念佛集)		ぞう(贈)	
せいだい(聖代)	三17	禪室	四19	選擇 本願 念佛集	二7 17	贈	一4 右4
聖代		せんしふす(撰集)		せんたく(先徳)		そうぎ(僧儀)	
せうぎやう(小經)	四78	せんしふす	二18	先徳	二1	僧儀	三11
小經		令ニ撰集		せんねむ(專念)		そうたちす(奏達)	
せうなごん(少納言)		せんじゆ(專修)		せんねむ	二23	そうもんす(奏聞)	三7
少納言		せんじゆ		せんねむす(專念)		奏聞し給ふに	
せうめちす(消滅)	四22	せんじゆつ(選述)	二5	せんねむす(專念)	一74	奏聞し給ふに	三19
消滅して		選述		專念するに		息	
せうろ(小路)	二23	ぜんしん(善信)	二83	せんばう(禪房)	一21 五8	そく(息)	一4
小路		善信	88 96	せんばん(千万)		そく(俗)	三12
せきさい(碩才)	三3	ぜんしんしやうにん(善信聖人)	二63	せんばん(千万)		そく(俗)	
碩才		善信 聖人	一1 二63	せんばん(千万)		そく(俗)	
せじ(世事)	五3	ぜんしんばう(善信房)	二103	せんばん(千万)		そく(俗)	
世事		善信房		せんばん(千万)		そく(俗)	
せち(設)	一36	ぜんぢちす(宣説)	一40	せんばん(千万)		そく(俗)	
設		宣説して		せんばん(千万)		そく(俗)	
せふざいす(攝在)	二19	ぜんぢちやう(禪定)	二17	せんばん(千万)		そく(俗)	
攝在		禪定		せんばん(千万)		そく(俗)	
せふしやう(攝生)				せんばん(千万)		そく(俗)	

その	— 44	— 35	— 37	— 49	— 89	— 90
其 <small>ソノ</small>	— 21	— 32	— 52	— 24		
その	— 37					
そのころ (其意)	— 59					
其意 <small>ソノイハ</small>						
そのことば (其詞)	— 53					
其詞						
そのころ	— 59					
そのせつ (其節)	— 45					
其節 <small>ソノセツ</small>						
そのてい (其昧)	— 41					
其昧						
そのとき (尔時・其時)	— 53					
尔時 <small>ソノトキ</small>						
そのとき	— 45					
其時 <small>ソノトキ</small>						
そのゆゑ (其故)	— 58					
そのゆへ	— 82					
そのゆへ	— 89					
そむく (背)	— 39					
背 <small>ソムク</small>						
そもそも《接続詞》						

抑 <small>オス</small>	— 63					
ぞや《連語》↓ぞ・や						
そる (剃)	— 13					
ソリ						
それ (夫・尔)	— 2	— 4	— 64			
夫 <small>ソレ</small>						
尔 <small>ソレ</small>	— 5					
そん (孫)	— 5					
孫 <small>ソン</small>						
そんぎやう (尊敬)	— 42					
そんぎやう <small>ソンギヤウ</small>						
尊敬 <small>ソウケイ</small>						
そんげん (尊顔)	— 42					
そんげん <small>ソンゲン</small>						
尊顔 <small>ソウガン</small>						
そんせい (尊成)	— 42					
そんせい <small>ソンセイ</small>						
尊成 <small>ソウセイ</small>						
そんぢう (尊重)	— 48					
そんぢう <small>ソンヂウ</small>						
尊重 <small>ソウジュウ</small>						
そんよう (尊容)	— 62					
そんよう <small>ソンヨウ</small>						
尊容 <small>ソウヨウ</small>						
た						
だいきやう (大經)						
大經 <small>ダイキヤウ</small>						
だいくにち (第九日)	— 47					
だいくにち <small>ダイクニチ</small>						
第九日 <small>クウジュニチ</small>						
だいきむ (第三)	— 19					
だいきむ <small>ダイキム</small>						
第三 <small>ダイサイム</small>						
だいさむてん (第三天)	— 58					
だいさむてん <small>ダイサムテン</small>						
第三天 <small>ダイサテン</small>						
だいさむれき (第三曆)	— 56					
だいさむれき <small>ダイサムレキ</small>						
第三曆 <small>ダイサイリキ</small>						
たいし (太子) ↓じやうぐう	— 68					
たいし <small>タイシ</small>						
太子 <small>タイシ</small>						
だいし (大士) ↓にだいし	— 52					
だいし <small>ダイシ</small>						
にだいし <small>ニダイシ</small>						
だいししやうにん (大師聖人)	— 67					
だいししやうにん <small>ダイシシヤウニン</small>						
大師聖人 <small>ダイシシヤウニン</small>						
73 79 98						
だいしちにち (第七日)	— 17					
だいしちにち <small>ダイシニチ</small>						
第七日 <small>ダイシニチ</small>						
だいしにち (第四日)	— 7					
だいしにち <small>ダイシニチ</small>						
第四日 <small>ダイシニチ</small>						
たいしやう (大將)	— 4					
たいしやう <small>タイシヤウ</small>						
大將 <small>タイシヤウ</small>						
だいにじやうだいじん (太政大臣)	— 4					
だいにじやうだいじん <small>ダイニジャウダイジン</small>						
太政大臣 <small>ダイニジャウダイジン</small>						
だいにじやうてんわう (太上天皇)	— 7					
だいにじやうてんわう <small>ダイニジャウテンワウ</small>						
太上天皇 <small>ダイニジャウテンワウ</small>						
たいしよくわん (大織冠)	— 3					
たいしよくわん <small>タイシヨクワン</small>						
大織冠 <small>タイシヨクワン</small>						
だいしん (大進)	— 6					
だいしん <small>ダイシン</small>						
大進 <small>ダイシン</small>						
だいにじん (大臣) ↓かんゐん	— 30					
だいにじん <small>ダイニジン</small>						
大臣 <small>ダイニジン</small>						
だいにじん・だいにじやうだい						
だいにじん・のちのながをかだい						
じん						
たいす (對)	— 47					
たいす <small>タイス</small>						
對 <small>タイス</small>						
たいそ (太祖・太祖)	— 25					
たいそ <small>タイソ</small>						
太祖 <small>タイソ</small>						
だいそうじやう (大僧正)	— 10					
だいそうじやう <small>ダイソウジヤウ</small>						
大僧正 <small>ダイソウジヤウ</small>						
だいだう (大道)	— 12					
だいだう <small>ダイダウ</small>						
大道 <small>ダイダウ</small>						

大道 <small>オウダウ</small>	24	たうちほんぜいちうぐわんふ こ(當知本誓重願不慮)	只	立へからさるそや	41
たいぢよす(剃除)	13	當知本誓重願不慮	ただいま《副詞》 只今 <small>タケイマ</small>	たづぬ(尋)	21 43 19 63
剃除し給き	4	たうちやう(刀杖)	ただし《接続詞》 但 <small>タダシ</small>	尋て	48
だいなこん(大納言)	1	たうど(唐土)	ただしくす(正)	たてまつる(奉)	13 49
大納言 <small>オウナクワン</small>	5	たうと	正する	たてまつりて	10
だいにてん(第二天)	5	たうらい(當來)	ただちに《副詞》 直 <small>タダチニ</small>	奉 <small>オウヤウ</small> (止)	22
第二天	5	當來 <small>オウライ</small>	ただひと(只人)	上口 <small>(口)</small> (止)	10
だいはちにち(第八日)	6左	だうろ(道路)	たたふ(濫)	たてまつる(止)	14
第八日	5	道路 <small>オウロウ</small>	たふ(濫)	たてまつる(體)	11
だいら(内裏)	58	たかし《形容詞》	たふ(濫)	たのむ(憑)	34
タイリ	54	高く	たちす(達)	憑(用)	33
たいりよ(太呂)	38	たかなり(尊成)	達し	たふとひ	5
太呂	37	タカナリ	たちどころに《副詞》	たふる(絶)	5
たいれい(類齡)	32	たくはふ(蓄)	立ちどころに	たまる	5
類齡 <small>ライレイ</small>	43	蓄 <small>オホホシヤ</small> 哉	たちまちに《副詞》	たまはく(給)	39
だう(堂) ↓みだう	2	たくひ(類)	たちまちに	たまはく	95
だう(道)	74	たくひ	忽 <small>オチマチニ</small> に	たまはらせたまふ	4
道 <small>オウ</small>	104 85 53	ただ《副詞》	たちまちに	賜 <small>オウマテ</small>	11
當時	174	唯	たつ(立)	賜(止)	4
だうぞく(道俗)	84 104 85 53	た	立		

たまはる(体)	二	102	ためなり	一	79
たまふ(給)	爲		ためひと(爲仁)	五	31 32
たまはすは	爲仁		たゆ(絶)	三	8 16
たまはし	タメヒト		たへ		5 7
給き	一	13 44 29	たり《助動詞》「完了」		5 7
たまひき	二	21 45 4	たら		2 47
たまひしに	二	26	たり		85 5 22
給けり	三	23	たる		4 64
たまひけるに	四	15	たれ		1 74
たまひにけり	四	20	たり《助動詞》「断定」		43 2 49 36
たまひけり	四	58	たるか		4 37
たまひて	五	6	たりき(他力)		
たまふ(止)	七	78 2 67	他力	一	28 25 92 95 96 101
72 95 4 2 56 84 5 8			たんこむ(端嚴)		
たまふへしとも	二	57	端嚴		3 33
給ふに	三	19 43 6	たんざす(端座)		
給へき	四	43	端座して		1 35
たまふに	一	28 44 10	ち		
たまへり	四	46			
給へ	二	58			
給と					
ため(爲)					
ために	一	61 2 50 3 22			
四	63				

専修寺蔵「善信聖人親繪傳繪」翻刻並びに索引

ち(徴) ↓ちつ			直入		一	29
ちうぐわん(重願)	重願		ちさむす(遅參)		二	62
ちうしゆん(仲春)	仲春		ちち(父)		一	11 左
ちうじゆん(中旬・仲旬)	中旬		ちつ(徴)		二	24
仲旬	仲旬		ちつきん(昵近)		二	35
ちうせち(忠節)	忠節		ちまた(衛)		四	4
忠節	仲冬		ちやうあん(長安)		四	53
ちうとう(仲冬)	仲冬		長(平安) 平整		五	8
ちうなごん(中納言) ↓を	ちうなごん		ちやうくみやう(長兄)		一	12
かささきのちうなごん	かささき		ちやくふくす(着服)		一	34
ちおんほうとく(知恩報徳)	知恩報徳		着服せしめ		二	24
ちかし《形容詞》	ちかし		ちゆす(註)		三	18 21
ちかき	ちかき		ちよくめん(勅免)			
ちかづく(近付)	ちかづく					
近に	近に					
ちぎに《副詞》	ちぎに					
直に	直に					
ちぎにふ(直入)	ちぎにふ					

ちよくん <small>(儲君)</small> ロチヨクン	一	次 <small>ツキ</small>	拙 <small>(用)</small>	53	つらなる <small>(連)</small>	一
儲君 <small>チヨクン</small>	57	つきめのどの <small>(月輪殿)</small> ツキノワト	つたはる <small>(傳)</small> ツタル	一	つらなり侍る <small>へし</small>	二
儲君 <small>チヨクン</small>	60	つきめのどの <small>(月輪殿)</small> ツキノワト	つたふ <small>(傳)</small> ツツフ	12	て	一
ちゑ <small>(智恵)</small> チエ	二	つきめのどの <small>(月輪殿)</small> ツキノワト	つちみかどのあん <small>(土御門院)</small> ツチミカトノキン	17	て	一
智恵	100	つき(就) ツク	土御門院	47	て	一
ちんぴ <small>(珍珠)</small> チムヒ	四	つき(着) ツク	つ <small>(助詞)</small>	57	て	一
珍珠	50	つきたまふ <small>へし</small> ツキタマフ	つね <small>(副詞)</small> ツネ	8	て	一
つ		つ <small>(付)</small> ツク	つね <small>(副詞)</small> ツネ	13	て	一
		つきたまふ <small>へし</small> ツキタマフ	つひ <small>(副詞)</small> ツヒ	27	て	一
		付 <small>(用)</small> ツケ	つひ <small>(副詞)</small> ツヒ	32	て	一
		つぐ <small>(告)</small> ツグ	つひ <small>(副詞)</small> ツヒ	35	て	一
		つげ <small>(告)</small> ツゲ	つひ <small>(副詞)</small> ツヒ	35	て	一
		つぐす <small>(尽)</small> ツグス	つね <small>(副詞)</small> ツネ	70	て	一
		つぐわす <small>(圖畫)</small> ツグワス	つね <small>(副詞)</small> ツネ	75	て	一
		つぐわす <small>(圖畫)</small> ツグワス	つね <small>(副詞)</small> ツネ	77	て	一
		つげ <small>(告)</small> ツゲ	つね <small>(副詞)</small> ツネ	78	て	一
		つたなし <small>(形容詞)</small> ツタナシ	つね <small>(副詞)</small> ツネ	84	て	一
		つたなく <small>して</small>	つね <small>(副詞)</small> ツネ	87	て	一
			つね <small>(副詞)</small> ツネ	89	て	一
			つね <small>(副詞)</small> ツネ	91	て	一
			つね <small>(副詞)</small> ツネ	92	て	一
			つね <small>(副詞)</small> ツネ	93	て	一
			つね <small>(副詞)</small> ツネ	94	て	一
			つね <small>(副詞)</small> ツネ	95	て	一
			つね <small>(副詞)</small> ツネ	96	て	一
			つね <small>(副詞)</small> ツネ	97	て	一
			つね <small>(副詞)</small> ツネ	98	て	一
			つね <small>(副詞)</small> ツネ	99	て	一
			つね <small>(副詞)</small> ツネ	100	て	一

丁寧 <small>テイネイ</small>	四 44	と	一 14
朝 <small>アサ</small>	一 55	と	二 25
テウ	四 71 左	と	三 37
でう <small>(条)</small>	一 53	と	四 46
てうてい <small>(朝廷)</small>	一 6	ト	五 52
朝 <small>アサ</small>	一 6	ト	六 68
でし <small>(弟子)</small> ↓ おむでし	三 13	ト	七 89
弟子 <small>テシ</small>	三 13	ト	八 97
てんたい <small>(天台)</small>	一 15	ト	九 83
てんちく <small>(天竺)</small>	四 71 左	ト	一〇 109
てんわう <small>(天皇)</small> ↓ きむめい	四 71 左	ト	一一 86
てんわう・だいじやうてんわう	一 1	ト	一二 86
でんゑ <small>(傳繪)</small>	一 1	ト	一三 63
傳繪 <small>デンエ</small>	一 1	ト	一四 45
と		ト	一五 76
と		ト	一六 48
と		ト	一七 58
と		ト	一八 61
と		ト	一九 63
と		ト	二〇 33
と		ト	二一 33
と		ト	二二 33
と		ト	二三 33
と		ト	二四 33
と		ト	二五 33
と		ト	二六 33
と		ト	二七 33
と		ト	二八 33
と		ト	二九 33
と		ト	三〇 33
と		ト	三一 33
と		ト	三二 33
と		ト	三三 33
と		ト	三四 33
と		ト	三五 33
と		ト	三六 33
と		ト	三七 33
と		ト	三八 33
と		ト	三九 33
と		ト	四〇 33
と		ト	四一 33
と		ト	四二 33
と		ト	四三 33
と		ト	四四 33
と		ト	四五 33
と		ト	四六 33
と		ト	四七 33
と		ト	四八 33
と		ト	四九 33
と		ト	五〇 33
と		ト	五一 33
と		ト	五二 33
と		ト	五三 33
と		ト	五四 33
と		ト	五五 33
と		ト	五六 33
と		ト	五七 33
と		ト	五八 33
と		ト	五九 33
と		ト	六〇 33
と		ト	六一 33
と		ト	六二 33
と		ト	六三 33
と		ト	六四 33
と		ト	六五 33
と		ト	六六 33
と		ト	六七 33
と		ト	六八 33
と		ト	六九 33
と		ト	七〇 33
と		ト	七一 33
と		ト	七二 33
と		ト	七三 33
と		ト	七四 33
と		ト	七五 33
と		ト	七六 33
と		ト	七七 33
と		ト	七八 33
と		ト	七九 33
と		ト	八〇 33
と		ト	八一 33
と		ト	八二 33
と		ト	八三 33
と		ト	八四 33
と		ト	八五 33
と		ト	八六 33
と		ト	八七 33
と		ト	八八 33
と		ト	八九 33
と		ト	九〇 33
と		ト	九一 33
と		ト	九二 33
と		ト	九三 33
と		ト	九四 33
と		ト	九五 33
と		ト	九六 33
と		ト	九七 33
と		ト	九八 33
と		ト	九九 33
と		ト	一〇〇 33

とかめて	二 85	と	一 14
とき <small>(時)</small> ↓ あるとき・このとき・そのとき	一 11 31 51 二 54 60 四 35	と	二 25
時 <small>トキ</small>	一 11 31 51 二 54 60 四 35	と	三 37
ときん <small>(頭巾)</small>	二 81 五 36	と	四 46
頭巾 <small>トキム</small>	二 81 五 36	と	五 52
とく <small>(説)</small>	四 26	と	六 68
とく <small>(説)</small>	四 26	と	七 89
とく <small>(説)</small>	四 26	と	八 97
とく <small>(説)</small>	四 26	と	九 83
とく <small>(説)</small>	四 26	と	一〇 109
とく <small>(説)</small>	四 26	と	一一 86
とく <small>(説)</small>	四 26	と	一二 86
とく <small>(説)</small>	四 26	と	一三 63
とく <small>(説)</small>	四 26	と	一四 45
とく <small>(説)</small>	四 26	と	一五 76
とく <small>(説)</small>	四 26	と	一六 48
とく <small>(説)</small>	四 26	と	一七 58
とく <small>(説)</small>	四 26	と	一八 61
とく <small>(説)</small>	四 26	と	一九 63
とく <small>(説)</small>	四 26	と	二〇 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	二一 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	二二 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	二三 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	二四 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	二五 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	二六 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	二七 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	二八 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	二九 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	三〇 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	三一 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	三二 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	三三 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	三四 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	三五 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	三六 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	三七 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	三八 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	三九 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	四〇 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	四一 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	四二 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	四三 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	四四 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	四五 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	四六 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	四七 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	四八 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	四九 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	五〇 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	五一 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	五二 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	五三 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	五四 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	五五 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	五六 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	五七 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	五八 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	五九 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	六〇 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	六一 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	六二 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	六三 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	六四 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	六五 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	六六 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	六七 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	六八 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	六九 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	七〇 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	七一 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	七二 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	七三 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	七四 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	七五 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	七六 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	七七 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	七八 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	七九 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	八〇 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	八一 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	八二 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	八三 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	八四 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	八五 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	八六 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	八七 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	八八 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	八九 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	九〇 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	九一 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	九二 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	九三 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	九四 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	九五 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	九六 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	九七 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	九八 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	九九 33
とく <small>(説)</small>	四 26	と	一〇〇 33



度 <small>トク</small>	とも	二五〇	ながえ <small>(轅)</small>	ながし <small>(何某)</small>	二六〇
ととのふ <small>(調)</small>	ともがら <small>(徒・聲)</small>	四三九	なにかし	なにかし	四六〇
調けり	徒 <small>トモカラ</small>	二二二	なかのさいのこほり <small>(那荷西郡)</small>	なにごと <small>(何事)</small>	二四三
とどむ <small>(留)</small>	ともから	二二二	那荷西郡 <small>ナカノサイノホリ</small>	何事 <small>ナニト</small>	二四三
留たまふ	ともから	二二二	ながら <small>(助詞)</small>	なふ <small>(納)</small>	二四三
ととむるに	とも	四一八	ながら	なほ <small>(納)</small>	二四三
ととむるに	ともに <small>(連語)</small>	四一八	なから	なを <small>(副詞)</small>	二四三
ととむる	ともに	四一八	ながをか <small>(長岡)</small>	なを	二四三
とにもかくにも <small>(副詞)</small>	共 <small>トモニ</small>	四一八	ながをか <small>(長岡)</small>	なほざねに <small>(直貫入道)</small>	二四三
左も右も	とら <small>(寅)</small>	四一八	ながをか <small>(長岡)</small>	直貫入道 <small>ナホザネニ</small>	二四三
との <small>(殿)</small>	寅 <small>トウ</small>	四一八	ながをか <small>(長岡)</small>	なみだ <small>(涙)</small>	二四三
つきのわのとの	とりべ <small>(鳥部野)</small>	四一八	なかりき	涙 <small>ナミダ</small>	二四三
殿 <small>ノ</small>	鳥部野 <small>トリベノ</small>	四一八	なし	涙 <small>ナミダ</small>	二四三
とぶらふ <small>(訪)</small>	とりての	四一八	なし	なむがく <small>(南岳)</small>	二四三
訪て <small>トブラフ</small>	とる <small>(取)</small>	四一八	なし	南岳 <small>ナムガク</small>	二四三
とほそ <small>(樞)</small>	取り	四一八	なし	なむほく <small>(南北)</small>	二四三
樞 <small>トホソ</small>	な	四一八	なし	南北 <small>ナムホク</small>	二四三
とほる <small>(過)</small>	ないだい <small>(内題)</small>	四一八	なし	なもあみだぶち <small>(南無阿弥陀佛)</small>	二四三
過 <small>トホリ</small>	ないだい <small>(内題)</small>	四一八	なし	南無阿弥陀佛 <small>ナムモアミダブチ</small>	二四三
とも <small>(接統助詞)</small>	なか <small>(中)</small>	四一八	なし	ならひ <small>(慣)</small>	二四三
とも <small>(接統助詞)</small>	なか <small>(中)</small>	四一八	なし	ならひ	二四三
とも <small>(接尾語)</small>	なか <small>(中)</small>	四一八	なし	ならび <small>(副詞)</small>	二四三

并 <small>ナラヒ</small>	二 8 60 三 10 13	なんぎやう (難行)	難行 <small>ナンギヤウ</small>	一 23
なり《助動詞》↓しかのみならず		なんぎやうだう (難行道)	難行道 <small>ナンギヤウダウ</small>	一 39
なりし	四 28	なんぞ (何)	何 <small>ナン</small>	四 46
也 <small>ナリ</small> (止)	一 6 11 12 39 51	に		
也 <small>ナリ</small> (止)	一 16 18 20 23 24 三 12 四 28 29 64 70 73	に		
ナリ (止)	一 11 左 二 30	に《格助詞》		
左 30 左 32 左 32 左 35 左 39 左 44 左 54 左 54 左 71				
なり (止)	一 25 67 69 79			
86 50 30				
也 (止)	一 62 二 96 79 101			
也と	二 64			
なりと	二 84			
なりとて	三 2 四 55			
なる	二 101			
ナル	五 22			
なれども	一 8			
なれば	一 60 二 103 五 9			

専修寺蔵『善信聖人親鸞傳繪』翻刻並びに索引

に《接続助詞》		二 年 <small>ニネン</small>	二 10 五 1
に	一 24 28 50 71 72 二 26 42	には《連語》↓に・は	
に	一 31 19 四 10 15 17 20 21 33	にふる (入路)	
に	36 39 45 51 53 64 84 五 28	入路 <small>ニラウ</small>	四 69
に	一 71 71 一 6 18 44 三 6	にほさち (二菩薩)	
に	6 9 9 10 11 11 13 四 79	二菩薩 <small>ニホサチ</small>	一 69
に	一 66	にも《連語》↓に・も	
に	一 29 31 四 41 75 77	にやくがじやうぶち (若我成佛)	二 12
に	88 89	若我成佛 <small>ニヤクガジヤウブチ</small>	
に	一 11 二 19 60 四 35 五 7	にやくふしやうじや (若不生者)	二 13
に	五 36 37	若不生者 <small>ニヤクフシヤウジヤ</small>	
に	二 32 左 四 53 左	によほむ (女犯)	一 37
に	四 55 五 10 17 19	女犯 <small>ニヨホム</small>	
に	二 21 世	によらい (如来)	一 70
に	一 3	如来 <small>ニヨライ</small>	四 69
に	一 19	如來 <small>ニヨライ</small>	
に	一 73	ぬ《助動詞》	二 110 四 20



は 侍りし 二九七  
侍るへしと 二七四  
侍る 二八一  
侍ると 四四〇  
侍るに 四三九  
はや(早) 四三四  
はや 四三三  
はる(春) 四三二  
春 四三一  
はるかなり(遥) 四三〇  
遥(ハルカニ) 四二九  
はるかに 四二八  
はん(反) 四二七  
ハン 四二六  
ばんいん(晩陰) 四二五  
晩陰(ハムイム) 四二四  
はんえんせうなごん(筈宴少納言) 四二三  
筈宴少納言(ハムイムセウナゴン) 四二二  
はんじやう(繁昌) 四二一  
繁昌(ハンシヤウ) 四二〇  
はんず(判) 四一九  
判(ハン) 四一八  
ひ(日) 四一七  
日(ヒ) 四一六  
ひき(悲喜) 四一五  
悲喜(ヒキ) 四一四  
ひく(引) 四一三  
ひかれて 四一二  
ひぐれ(日暮) 四一一  
ヒクレ 四一〇  
ひげ(鬚) 四〇九  
ヒゲ 四〇八  
ひごろ(日者) 四〇七  
日者(ヒゴロ) 四〇六  
ひさし(形容詞) 四〇五  
久シク(ヒシク) 四〇四  
ひそかに(副詞) 四〇三  
竊(ヒソカニ) 四〇二  
ひたちのくに(常陸國) 四〇一  
常陸國(ヒタチノクニ) 四〇〇  
ひち(弼) 三九九  
弼(ヒチ) 三九八

は《助詞》  
は 二五八 60 64 二二 3 42  
56 82 89 92 99 102 107 107 107 四  
11 11 73 五八

はこね(箱根) 二一七  
箱根(ハコネ) 二一六

はこぶ(運) 四三一  
運(ハコビ) 四三〇

はず(馳) 五二六  
馳(用)(ハス) 五二五

はた(幡多) 五三二  
幡多(ハタ) 五三一

はち(恥) 五三三  
恥(ハチ) 五三二

はちにち(八日) ↓だいはちにち 五三四  
にち(ハチニチ) 五三三

はなはた 二二二  
甚(ハナハタ) 二二一

はなはた 二三八  
はなはた 二二七

はなぶさ(尊) 二二九  
尊(ハナブサ) 二二八

はかりなし(形容詞) 二八二  
はかりなき 二八一

専修寺蔵『善信聖人親鸞傳繪』翻刻並びに索引

ひち(筆) ↓ ひち	ひとへに《副詞》	ひろく	ふがふす(符合)
ひちとくわうじやう(必得往生)	ひとへに	ひろふ(拾)	符合せりと
必得往生 <small>ヒトトクワウジヤウ</small>	偏に	拾 <small>ヒロフ</small>	かくむ(合)
ひと(人)	偏	拾(止)	ふくめり
人	ひとのう(丁卯)	ひろむ(広)	ふささき(房前)
人	丁卯 <small>ヒトノウ</small>	ひろめたまひしに	房前 <small>フササキ</small>
人	ひぶちこむげん(彼佛今現)	ひろめたまふに	ふし(武士)
人	彼佛今現 <small>ヒフチコムゲン</small>	ひろむるに	武士
ヒト	ひべう(紕繆)	びんぼつ(鬢髮)	ふしぎ(不思議)
ヒト	紕繆	鬢髮 <small>ビンボツ</small>	不思議
ひとしからんとも	ひほむ(被犯)	ふ	ふじはらうじ(藤原氏)
ひとしと	被犯 <small>ヒホム</small>		藤原氏 <small>フヂハラウジ</small>
ひとしかるへきと	ひむがし(東)		ふしやう(浮生)
ひとしくす(等)	ヒムカシ		浮生 <small>フシヤウ</small>
ひとしくして	東 <small>ヒムカシ</small>	ふ(曆・經)	ふしゆしやうかく(不取正覺)
ひとたび(一度)	東	曆 <small>フ</small>	不取正覺 <small>フシユシヤウカク</small>
一たび	ひむがしやま(東山)	經 <small>フ</small>	ふじぬのもとひこ(藤井元彦)
ひとつ(一)	東山 <small>ヒムガシヤマ</small>	ぶいむ(無音)	藤井元彦 <small>フヂノモトヒコ</small>
ひとつ	びやくれんぐゑ(白蓮花)	無音	藤井元彦
ひとつ	白蓮花 <small>ヒヤクレンクヱ</small>	ふかし《形容詞》	ふじぬのよしざね(藤井善信)
ひとつ	ひらく(披・發)	ふかく	藤井善信 <small>フヂノヨシザネ</small>
ひとひと(人人)	披 <small>ヒライ</small>	深し	ふす(臥)
人々	發 <small>ヒラフ</small>	ふかき	臥したまひて
人々	ひろし《形容詞》	ふかき	ふぞくす(附囑)
人々			

附嘱し 四七六  
 附嘱シ 四七八  
 附嘱す 四七八  
 ふたごころ (二) 四六一  
 二フタゴコロ  
 ぶち (佛) 四六一  
 佛フチ  
 ぶちおん (佛恩) 二一〇二  
 佛オム  
 ぶちかく (佛閑) 五三  
 佛恩  
 佛閑 五一九  
 ぶちけう (佛教) 五二四二七  
 佛ケウ  
 ぶちじよう (佛乘) 一六一  
 佛乗  
 ぶちほふ (佛法) 一七八四四一十二  
 佛法  
 ぶちみやう (佛名) ↓いちぶ  
 ちみやう  
 ふかう (扶風) 五四  
 扶(平)風(平)

踏 四九〇  
 ふもと (麓) 五一〇一十二一七一八  
 麓  
 ぶゆ (冬) 五一七  
 冬  
 ふよく (馮翊) 四五四  
 馮(平)翊(入)  
 馮翊  
 ふれい (不例) 五〇八  
 不例  
 ぶん (文) 一三八  
 文  
 ぶんえい (文永) 五一七  
 文永  
 ぶんぼ (墳墓) 五一八  
 墳墓

へいか (陛下) 三二〇  
 陛下  
 へいたらう (平太郎) 四六〇六二  
 平太郎  
 へうえい (苗裔) 一三  
 苗裔  
 へうじ (表事) 五一  
 表事  
 へうだう (廟堂) 五二七  
 廟堂  
 べし《助動詞》  
 へからす 二六五八四一〇四四六七  
 へからさるそや 四八一  
 へかりし 一八  
 へしと 一四一七六二五四六六七四  
 可 四四五  
 へしとも 二五三六一  
 へしとて 二五八  
 へきなり 二四六二  
 へきと 二八八  
 へき 二八九一〇八三三三四四二四三  
 へんしう (辺州)

邊州 三三  
 へんひ (辺鄙) 一六六  
 邊鄙  
 へんふす (遍布) 五二三  
 遍布して  
 ほうこ (蓬戸) 四三  
 蓬戸  
 ほうしや (報謝) 五二五  
 報謝  
 ほうでん (寶典) 二二〇  
 寶典  
 ほうど (報土) 二四六  
 報土  
 ほうびす (保美) 二二〇  
 保美す  
 ほか (外) ↓このほか 一十  
 ほか  
 ぼさち (菩薩) ↓ぐぜぼさ  
 ち・にぼさち  
 ぼじ (嘔時)

暍時	537	ほふりき <small>(法力)</small> ↓しやみほ	本願 <small>ホンクワン</small>	申待りし	二97
ほちきす <small>(發起)</small>	491	ふりき	ほんし <small>(本師)</small>	申たりしに	二84
ほ <small>(程)</small>	二49	ほふりきばう <small>(法力房)</small>	ほんじき <small>(飯食)</small>	申けり	二3
ほと	441	ほふれんしやうにん <small>(法蓮上人)</small>	飯食	申也	二97
ほとこす <small>(施)</small>	二22	法蓮上人	ほんぢ <small>(本地)</small>	申は	二99
施さん	一58	ほむぐ <small>(凡愚)</small>	本地	申に	四19
ほとり <small>(邊)</small>	五8	ほむけう <small>(稟教)</small>	ほんぶち <small>(本佛)</small>	まうちのみみ <small>(公卿)</small>	二28左
邊	10	凡愚	本佛	まく <small>(卷)</small>	二109
ほふ <small>(法)</small>	12	ほむぶ <small>(凡夫)</small>	ま	まく <small>(卷)</small>	二109
法 <small>ホフ</small>	19	凡夫	まうく <small>(儲)</small>	まこと <small>(誠)</small>	二19
ほふいんくわしやうぬ <small>(法印和尚位)</small>	三9	ほりわたす <small>(堀渡)</small>	まうく <small>(儲)</small>	まことに	二91
和尙位	二60	堀渡 <small>ホリワタシ</small>	まうす <small>(申)</small>	まさし <small>《形容詞》</small>	二436
法印和尚位	二60	ほん <small>(本)</small>	申さる <small>ト</small>	まさしく	二98
ほふし <small>(法師)</small> ↓ぐゑんくう	二9	ほん <small>(本)</small>	申さる <small>ト</small>	まじはる <small>(交)</small>	二40
ほふし	二9	ほんい <small>(本意)</small>	申さほ <small>ト</small>	まじわり <small>つるか</small>	二40
ほふしやうじ <small>(法性寺)</small>	四85	本意	申さむ	まじふ <small>(交)</small>	二40
法性寺	四85	ほんくわい <small>(本懐)</small>	マシ	まし <small>ト</small>	二53
ほふみやう <small>(法名)</small>	二17	本懐	申たまはく	まします <small>(坐)</small>	二47
法名	二17	ほんぐわん <small>(本願)</small>	申マシ	ましまさん	二47
			申て	まし <small>ト</small>	二30
				まし <small>ト</small>	二30
				まし <small>ト</small>	二32

ましくけり	四三	万里小路 <small>マンリコウジ</small>	五九
マシマス	二二八左二八左	まどふ(迷)	
まします	五二	迷 <small>マドフ</small>	三六
ますます《副詞》	五二	まのあたり(親)	
ますく		親 <small>マンアツリ</small>	二二七
また《接続詞》		まへ(前) ↓おむまへ	
又	一六八二一〇一	まぼろし(幻)	
又		幻 <small>マボロシ</small>	四五二
又	一六三五三二三三	まもる(守)	
また	一六四四二四	守(体)	二二三八
又	一一五四七	まよひやしし《形容詞》	
またし《形容詞》		まよひやすきに	一一二二
またく	二二九四	まれ(希)	
まちほふ(未法)		まれ	一一二三八
未法 <small>マホフ</small>	四六五七	まれうど(客人)	
まちりう(未流)		マレウト	四四三左
未流 <small>マウリウ</small>	五二二	まゐる(參)	
まづ《副詞》		まいらむ	一一二一〇七
先 <small>マヅ</small>	二二二九	まいらせたまはし	一一二一〇七
まつりごと(政)		参たまひき	一一二二一
政 <small>マツリゴト</small>	二二二八	参 <small>マヰリ</small>	四四八
マツリコト	四四八左	参たるに	四四六
までのこうち(万里小路)			

専修寺藏「善信聖人親鸞傳繪」翻刻並びに索引

まいるへしと	二六六	みつ(満)	
まんしや(万差)		満たまふ	五八
万差 <small>マンシヤ</small>	四六四	みづのえいぬ(壬戌)	
まんぞくす(満足)		壬戌	五二
満足 <small>マンゾク</small>	四六	みづのえさる(壬申)	
満		壬申	五二
み		みな(皆)	
みういちにん(未有一人)	四六八	みな	一一二五九七三
未有一人 <small>ミウイチニン</small>		皆 <small>ミナ</small>	四六九
みぎ(右)		みなみ(南)	
右 <small>ミギ</small>	三二八	南 <small>ミナミ</small>	五九
右	五三	みやう(名)	一一二
みぎり(砌)		名 <small>ミヤウ</small>	
砌 <small>ミギリ</small>	二二二九	みやうじ(名字)	一一二
みこ(命)	一一三	名字 <small>ミヤウジ</small>	一一三
命 <small>ミコ</small>		みやうにち(明日)	
みだう(御堂)	一一四二	明日 <small>ミヤウニチ</small>	一一二五
御堂 <small>ミダウ</small>		みやうほふばう(明法房)	
みだりがはし《形容詞》		明法房 <small>ミヤウホフバウ</small>	四二八
狼 <small>ミダリカシラ</small>	三二二	みやこ(都)	
みち(路)	四三〇四三	ミヤコ	四四三左
路 <small>ミチ</small>	五八五九	みゆ(見)	一一四
		みゆ	



みる(見)	見 <small>ミル</small>	二一九	夢想 <small>ムソウ</small>	一三二	めち <small>メチ</small> (滅後)	滅後 <small>メチゴ</small>	五二五	もとも <small>モトモ</small> (《副詞》)	二五三
みれば	無上 <small>ムシヤウ</small>	一四三	むじやう(無上)	二二〇	めんじゆ(面受)	面受 <small>メンジュ</small>	四五七	最 <small>モトモ</small>	四四八
みろく(弥勒)	彌勒 <small>ミロク</small>	四七六	むすぶ(結)	二四四	めんめん(面面)	面 <small>メン</small>	一五二 一〇九 五二六	もの(者)	二二九
む	ムツヒ		むつび(睦)	二三九	も			ものうし(形容詞)	四一五
む(《助動詞》)	ムツヒ		むね(旨)	二二六	も(《助詞》)	をも	一七 八 二 四九	もはら(《副詞》)	四六一
ん(止)	ムツヒ		むま(午)	五五	も	一五四 一七三 九一 九五 九六 一〇三	もはら	五四	
ん(止)	ムツヒ		め		にも	一〇四 四三三 三三 三九 五三	もよほひす(催)	一〇	
ん(体)	ムツヒ				もし(《副詞》)	八八 八九	もよをひしに		
む(体)	ムツヒ				もし	二二九 三二 四四 四一 四一 七五 七七	もる(漏)		
ム(体)	ムツヒ				もて(以)	一五八 六三 六五	もる(からす)	二六五	
め	ムツヒ				銘 <small>メイ</small>		もん(文)		
むかし(昔)	ムツヒ				めいしむ(迷心)		もん(文)		
むかし	ムツヒ				迷心 <small>メイシン</small>		もんえふ(門葉)	一四六 四七四 八〇	
ムカシ	ムツヒ				めいもん(明文)		もんこ(門戸)	二七五 五二三	
昔 <small>ムカシ</small>	ムツヒ				明文 <small>メイモン</small>		もんぜん(門前)	二二六	
むかふ(向)	ムツヒ				めぐらす(巡)				
むかふに	ムツヒ				めくらし				
むさう(夢想)	ムツヒ								

門前 <small>モンゼ</small>	二	34	やうやく《副詞》 漸 <small>ヤマク</small>
もんてい(門弟)			四
門弟 <small>モンテイ</small>	五	13	やから(族) 族 <small>ヤカラ</small>
もんと(門徒)			二
門徒 <small>モント</small>	二	68 三	16 四
もんりよ(門侶)	四	57	やさん(射山) 射山 <small>ヤサン</small>
門侶 <small>モンリョ</small>	二	59	やすし《形容詞》 易 <small>ヤスシ</small>
や			二
や(助詞)	一	65	やま(山) 山 <small>ヤマ</small>
や	一	43	やまぶし(山臥) 山臥 <small>ヤマフシ</small>
哉 <small>ヤ</small>	二	63	やむ(止)
哉 <small>ヤ</small>	四	75	やみにけり
哉 <small>ヤ</small>	二	75	やや《副詞》 良 <small>ヤ</small>
そや	四	81	ややもすれば《副詞》 動は <small>ヤ、モシレハ</small>
やう(様)	四	38	ゆいじやうど(唯有淨土) 唯有淨土 <small>ユイジヤウト</small>
やうかうす(影禱)	四	46	四
影禱したまへり			四
やうふ(養父)	一	11	四
養父 <small>ヤウフ</small>			70

ゆいくん(遺訓)	遺訓 <small>ユイクン</small>	五	21
ゆいこち(遺骨)	遺骨 <small>ユイコチ</small>	五	11
ゆく(行)	行て	四	19
ゆめ(夢)	夢 <small>ユメ</small>	一	41 8 二
ゆらい(生来)	由 <small>ユライ</small>	二	24
ゆゑ(故・以)	ゆゑ	二	101
よ	よ		
よ(世)	世 <small>ヨ</small>	二	22 二
よ(夜)	夜 <small>ヨ</small>	一	31 四
よ(子)	子 <small>ヨ</small>	二	39 三
よくじつ(翌日)	よくじつ	二	39 三
翌日 <small>ヨクジツ</small>			
よくよく《副詞》	よくよく	二	108
よこん(餘言)	餘言 <small>ヨコゴト</small>	五	4
よし(由)	由 <small>ヨシ</small>	三	3
よしざね(善信)	よしざね	四	63
よしみ(好)	好 <small>ヨシミ</small>	二	44 四
よしみづ(吉水)	吉水 <small>ヨシミヅ</small>	一	21 五
よそほふ(粧)	粧 <small>ヨソホヒ</small>	四	49
よはひ(齢)	ヨワイ	四	36 左
よも 《副詞》	よも	二	107
よもすから 《副詞》	よもすから	四	39
夙夜 <small>ヨモスカラ</small>			

より《助詞》	悦 <small>ヨロコビ</small>	二四三	被 <small>ラレテ</small>	一五一七三九九四六四二六四	理致 <small>リチ</small>	一
より	ら	一四五二	られたまはずは	一六四	りむじゆ《臨終》	一
より	ら	95 102 四一五 一八	られ	二五四	臨終 <small>リンシュ</small>	一三三
より <small>う</small> 《餘流》	ら《等》	一七	ラレシ	三一一	りやうしゆ《領主》	四八九
餘流 <small>ヨリク</small>	等 <small>ヲ</small>		らるへき	二一〇八 三三	領主 <small>リヤウシュ</small>	四八九
よりて《連語》	らいしす《來至》	一〇二 24 56 72 三一	らるゝ	二六四	りやうはう《兩方》	二五六
よりて	來至 <small>ライシ</small>	四八四	らるゝ	二六四	兩方 <small>リヤウハウ</small>	二五六
由 <small>ヨ</small> か	らいらむ《來臨》	一六六	らん《贊》	二五	りやく《利益》	四一五
因 <small>イン</small>	來臨 <small>ライリン</small>	一七九	らん《贊》	二五	りやくす《略》	三一六
由 <small>ヨ</small>	らういん《良因》	一七一	響上人 <small>キョウジョウジン</small>	三二四	りやくす《略》	三二六
依 <small>イ</small>	良因 <small>ライイン</small>	一七九	り		略する <small>リヤクスル</small>	五二九
仍 <small>ニ</small>	らうせう《老少》	一七九	り		りようこむ《楞嚴》	一五六
仍 <small>ニ</small>	老少 <small>ラウセウ</small>	一七九	り		楞嚴 <small>リョウオン</small>	一五六
口 <small>ク</small> りて	らうにやく《老若》	一七九	り			
よりより《副詞》	老若 <small>ラウニヤク</small>	一七九	り			
時 <small>トキ</small>	らくと《洛都》	一七九	り			
よりある《寄居》	洛都 <small>ラクト</small>	一七九	り			
寄 <small>ヨ</small> り侍ると	らくやう《洛陽》	一七九	り			
よる《寄》	洛 <small>ラク</small> 《入陽》	一七九	り			
よるこび《喜・悅》	洛陽 <small>ラクヤウ</small>	一七九	り			
喜 <small>ヨロコビ</small>	らる《助動詞》	一七九	り			

るけい (流刑)	六	二五三	ろくかくだう (六角堂)	二五三
流刑	六	二五三	六角堂	二五三
るさい (流罪)	一	63	ろくだい (六代)	32
流罪	一	63	六代	32
るつう (流通)	三	16	ろんじゆ (論主)	5
流通	三	16	論主	5
れ	四	75		79
れいくみやう (齡傾)	四	36	わうごむ (黄金)	29
齡傾	四	36	黄金	29
れいち (靈地)	四	89	わうじ (往事)	51
靈地	四	89	往事	51
れいみん (黎民)	二	32	わうじやう (往生)	73
黎民	二	32	往生	73
れき (曆)	一	19	わうせん (横川)	17
曆	一	19	横川	17
れんぼ (恋慕)	五	15	わうへんす (往反)	15
恋慕	五	15	往反したまひけるに	15
ろく (六)	四	7	わうむ (往夢)	7
	四	7	往夢	7

専修寺蔵「善信聖人親鸞傳繪」翻刻並びに索引

わが (我・吾)	一	39	わたり (辺)	四	55
我	一	39	わたり	四	55
吾	一	55	わたる (渉)	二	20
わが	一	55	渉	二	20
ワカ	四	71	われ (我) ↓が	一	64
ワカ	四	71	われ	一	65
わか (若狭)	一	11	わ	一	69
若狭	一	11			
わか (分)	二	57	わす (違)	三	9
わかたるへきなり	二	57	違	三	9
わきまふ (辯)	三	6	ゐる (居) ↓よりある		
辯	三	6	ゐん (院) ↓ことばのゐん・		
わく (分)	二	64	さどのゐん・つちみかどの		
わけるるゝ	二	64	ゐん		
わくわう (和光)	四	84			
和光	四	84			
わしる (趨)	一	7			
趨	一	7			
わたくし (私)	二	94			
わたくし	二	94			
わたす (渡) ↓ほりわたす	四	72			
わたす	四	72			
わたされしによりて	一	56			
	一	56			

